

労災疾病臨床研究事業費補助金

過労死等の実態解明と防止対策に関する
総合的な労働安全衛生研究

(211001-01)

令和3－令和5年度 総合研究報告書

研究代表者 高橋 正也

令和6（2024）年3月

労災疾病臨床研究事業費補助金

過労死等の実態解明と防止対策に関する
総合的な労働安全衛生研究
(211001-01)

令和3－令和5年度 総合研究報告書

研究代表者 高橋 正也

令和6（2024）年3月

目 次

I. 総合研究報告書	
「過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究」	1
II. 研究成果の刊行に関する一覧表	34

令和3～令和5年度労災疾病臨床研究事業費補助金
「過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究」
(211001-01)
総合研究報告書

過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究

研究代表者 高橋正也 独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所
過労死等防止調査研究センター・センター長

<研究要旨>

我が国における過労死等防止に資するため、過労死等の医学・保健面より、1) 過労死等労災認定事案研究、2) 疫学研究(職域コホート調査、現場介入調査)、3) 実験研究(循環器負担のメカニズム解明、過労死関連指標と体力との関係の解明)、4) 対策実装研究を行った。第三期(令和3～令和5年度)の研究として以下の成果を得た。

1) 事案研究

事案研究では、主に過去12年間の過労死等の業務上外事案の特徴の経年変化、重点業種の解析、2024年4月に時間外労働の上限規制が適用される自動車運転従事者、建設業の過労死等の特徴と分析結果の活用研究、過労死等の病態や負荷要因の解析、過労死等防止のための社会科学的な検討、過労死等に係わる労災補償保険給付状況結果など以下の研究を行い成果が得られた。

- ① 脳・心臓疾患及び精神障害の過労死等事案の経年変化解析
- ② 道路貨物運送業における精神障害の業務上・業務外事案の解析
- ③ 医師の過労死等の労災認定事案の特徴に関する解析
- ④ 看護職員のトラウマティックな出来事に関する分析
- ⑤ IT産業における精神障害・自殺事案の分析
- ⑥ 建設業における過労死等事案の労務管理視点からの分析
- ⑦ 教育・学習支援業における精神障害事案・自殺事案の分析
- ⑧ メディア業界における過労死等の労災認定事案の特徴に関する分析
- ⑨ 医療従事者における精神障害・自殺事案の分析
- ⑩ 業種・職種別の過労死等の特徴と分析結果活用に関する研究
- ⑪ 脳・心臓疾患の過労死等事案における病態に関する研究
- ⑫ 精神障害の労災認定事案におけるいじめ・暴力・ハラスメントの検討
- ⑬ トラック運送業における運行パターンの定量解析
- ⑭ 裁量労働制適用者の労災認定事案の分析
- ⑮ 脳・心臓疾患の労災認定事案における拘束時間、勤務間インターバル等の分析
- ⑯ 過労死等による労災補償保険給付と疾病に関する評価

2) 疫学研究

コホート研究：コホート対象施設のメンテナンスを継続し、データ解析によって月の平均労働時間や残業回数と心理的な訴えの関連性、統計的に有意なオッズ比が示された健康診断指標は、平均労働時間ではHbA1c、HDLコレステロール、LDLコレステロール、長時間労働の頻度ではBMI、収縮期血圧、空腹時血糖であったこと、仕事要求度はその後の健康状態にも強く影響する可能性があるなどの知見が得られた。

現場介入研究：交替勤務に従事する看護師を対象とした連続深夜勤後の勤務間インターバルの確保による介入効果、トラックドライバーを対象とした働き方と血圧の関連性、勤務時間

外の仕事のメールと在宅勤務が疲労に及ぼす影響、スマートフォン版の疲労測定アプリの開発の結果が報告された。また、AIを活用した勤怠スケジューラーを利用した介護労働者への介入調査の実施、夜勤・交替勤務とセルフモニタリング能力の関連性の検討、過重労働と生体負担を評価するバイオマーカーの検討の結果がまとめられた。

3) 実験研究

実験研究では、WEB 調査と運送会社の運行日誌の検討から、実際のドライバーの休憩のとり方を明らかにし、ドライビングシミュレータを用いた実験研究によってドライバーの心血管系負担に対する休憩効果の検討を行った。循環器疾病発症との関連性が強く指摘されている心肺持久力(CRF)の評価法として、これまでに開発した「労働者生活行動時間調査票(WLAQ)」と「簡易体力検査法(JST)」の有用性が確認された。

4) 対策実装研究

対策実装研究では、運輸業と建設業を対象に、現状の把握と効果的で実施可能な過労死等の防止対策を議論するためのステークホルダー会議を開催し、脳・心臓疾患のハイリスク者管理、重層構造における過重労働対策、中小規模事業場における産業保健支援方法、労働者の過労死等防止のための行動変容支援、職場環境改善を支援するチェックリスト(ドライバー版)開発と改善プログラムの開発を行った。

研究分担者:

吉川 徹(労働安全衛生総合研究所過労死等防止調査研究センター・統括研究員)
佐々木毅(同研究所産業保健研究グループ・部長)
久保智英(同研究所過労死等防止調査研究センター・上席研究員)
井澤修平(同センター・上席研究員)
劉 欣欣(同センター・上席研究員)
松尾知明(同センター・上席研究員)
池田大樹(同センター・主任研究員)
蘇 リナ(同センター・主任研究員)
松元 俊(同センター・研究員)
佐藤ゆき(同センター・研究員)
小山冬樹(同センター・研究員)
西村悠貴(同センター・研究員)
川上澄香(同センター・研究員)
木内敬太(同センター・研究員)
鈴木一弥(同センター・研究員)
茂木伸之(同センター・研究員)
岩浅 巧(同センター・研究員)
山内貴史(同センター・研究員)
高田琢弘(同センター・研究員)
守田祐作(同センター・研究員)
高橋有記(同センター・研究員)
中辻めぐみ(同センター・研究員)
田原裕之(同センター・研究員)
薛 載勲(同センター・研究員)
池添弘邦(独立行政法人労働政策研究・研

修機構・統括研究員)

高見具広(同機構・主任研究員)
藤本隆史(同機構・リサーチアソシエイト)
石井華絵(同機構・アシスタントフェロー)
酒井一博(公益財団法人大原記念労働科学研究所研究部・主管研究員)
佐々木司(同研究所・上席主任研究員)
北島洋樹(同研究所・主任研究員)
石井賢治(同研究所・主任研究員)
深澤健二(株式会社アドバンテッジリスクマネジメント・メディカルアドバイザー)

A. 目的

我が国における過労死等の防止に資するため、1)過労死等労災事案研究、2)疫学研究(職域コホート研究、現場介入研究)、3)実験研究(心血管系の作業負担、心肺体力測定法の職場応用)、4)対策実装研究(研究成果の直接的還元)を実施し、過労死等の更なる実態解明と実施可能な防止対策を提案することを目的とする。

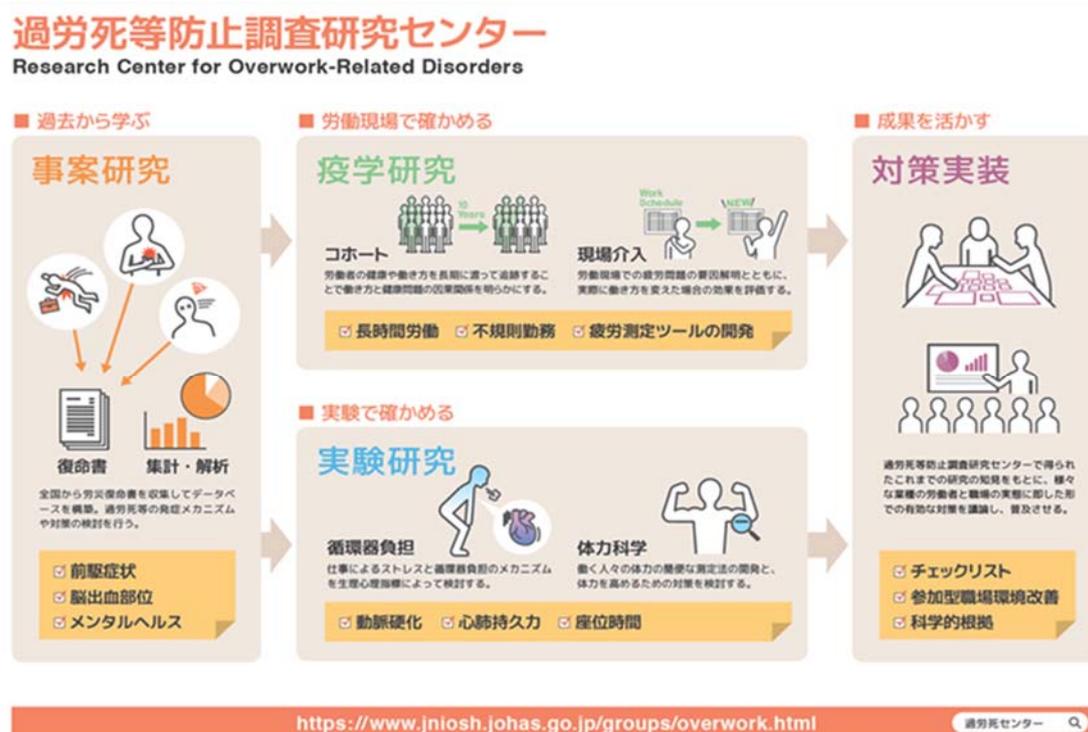
B. 方法

本研究は、1)全国の過労死等に係る調査復命書を収集し、データベースを構築するとともに、調査復命書の情報を解析し、過労死等の発生メカニズムを検討する「事案研究」、2)労働現場で働く人々を対象として、過労死等

の発生に関連する要因の解明と、有効な疲労対策の効果検証を行う「疫学研究」、3) 労働現場では検証することが困難な状況を実験室で模擬し、精緻な検証を行う「実験研究」、以上の3つのカテゴリーの研究で得られた知見をもとに考えられた対策を実社会に還元し、過労死等の防止を目指す「対策実装研究」の4つのアプローチ(分野)から過労死等の実態解明と防止対策を総合的に検討した。

本研究の研究体制と概要を図表1に、第三期(令和3年度から令和5年度)の研究の全体像を図表2に示した。

また、令和5年度には過労死等防止に関する科学的知見や、対策実装に関する情報の周知を目的に、過労死等防止調査研究センターのポータルサイトを開設した(図表3)。同サイトでは、①そもそも過労って?、②ハイリスクな働き方、③職場改善のアイデア、④エビデンス・資料、⑤RECORDsについて、の5つの大きなカテゴリーのもとで、過労死等防止に関連した最新の医学情報や研究情報、当研究班によって作成された各種ツールの公開と解説、有用な資料の提供を行った。



図表1 過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究の概要

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過労死等 事案の解析	事案収集の継続とデータベース更新		
	脳・心臓疾患(くも膜下出血や心筋梗塞)の病態と過重労働との関連 精神科医による精神障害事案の検証と是正策の提案 過労死等による労災保険給付の現状	精神障害事案の産業精神 保健学的検証 業種・職種別過労死等の 特徴と防止対策	
【トラック運行パターン】	デジタルタコグラフデータの詳細解析と小規模事業場での調査		
【労働法学・社会学的分析】	職種や職位などによる影響(脳・心臓疾患と精神障害)		
疫学研究			
【職域コホート研究】	追跡調査の継続と前年度までに収集したデータの解析		
【現場介入研究】	看護師、介護労働者:交代勤務スケジュール変更等に伴う健康や疲労回復への影響 トラック運転者:睡眠のとり方等の調整に伴う血圧や疲労回復への影響 疲労回復を促す勤怠スケジューラーの開発、疲労測定アプリの改良 製造系事業場等:過重労働部署の負担軽減策		
【労働・社会面の調査研究】	社会労働衛生研究グループと連携した過労死等に関する労働・社会分野の調査研究		
実験研究			
【模擬運転時の心血管系負担】	準備・倫理審査・予備実験	本実験・データ分析	学会発表・論文文化
【心肺体力測定法の職場応用】	心肺体力測定法の改良・検証とデータ処理システムの構築		メンタルフィットネス 指標の開発
対策実装 研究	「過労死等防止のためのアクション支援ツール」の周知と普及 産業医・社会保険労務士による過労死等事案の検証と健康管理・労務管理上の改善提案 過労死等の重点業職種における防止策の実装プロセスと対策効果		

過労死等の防止策・実施手法の提示

図表 2 過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究（第三期、令和3年度から令和5年度）の全体像



図表 3 過労死等防止ポータルサイト (<https://records.johas.go.jp/>)

■倫理面での配慮

本研究は、労働安全衛生総合研究所研究倫理審査委員会にて審査され、承認を得たうえで行った。それぞれの分担研究の通知番号は図表4のとおりである。

	通知番号
過労死等 事案研究	H2708、H2743、H2803、 H2804、H2903、H2904、 H3009、2019N20、2020N04、 2021N16、2021N26、 2022N10
疫学研究	JNIOSH コホート： H2812、H2919 現場介入研究： H2824、H2917、H3006、 2019N34、2020N07、 2021N09、2021N14、 2021N15、2022N08、 2023N12、2023N13
実験研究	心血管系負担： H2713、H2731、H2742、 H3006、H3013、H3014、 H3024、2022N07 心肺持久力： H2920、2019N09、2019N10、 2019N35、2020N18、 2021N06、2021N17、 2021N26、2021N30、 2023N06
対策実装 研究	2022N02、2022N12、 2023N26

図表4 倫理審査委員会・通知番号

C. 結果

1. 事案研究

①平成22年度から令和3年度における業務上事案(脳・心臓疾患3,100件、精神障害5,728件)、業務外事案(脳・心臓疾患4,953件、精神障害11,236件)の経年変化を調べると、(1)脳・心臓疾患の業務上事案では、男性が95%、40～59歳が多く、脳血管疾患が60%、最多業種「運輸業、郵便業」は件数と共に雇用者100万人対換算でも顕著に減少した。(2)精神障害の業務上事案では、男性が65%、30～49歳が多く、気分[感情]障害が46%、特に「医療、福祉」の件数が増加し、雇用者100万人対換算では多くの業種で増加した。(3)脳・心臓疾

患の業務外事案では、男性が85%、50歳以上が多く、「運輸業、郵便業」の特徴は業務上事案と同様であった。(4)精神障害の業務外事案では、男性が57%、30～49歳が多く、気分[感情]障害が39%であった。雇用者100万人対換算では「情報通信業」、「運輸業、郵便業」が多かった。

②道路貨物運送業の精神障害の業務上事案について、運行パターンでは深夜・早朝出勤型・通常タイプと夜勤型・通常タイプが多かった。業務外事案では、対人関係「上司とのトラブル」における上司は管理職以上が多かった。既往歴が有りの場合、疾患(症状)の発症・悪化(または継続)が入社日から30日未満の時期に多かった。

③「医療、福祉」の労災認定事案の7割が女性で、脳心事案では男性が8割弱、精神事案では女性が7割強と多数を占めた。脳心事案では死亡は半数弱を占め、精神の死亡(自殺)は1割弱であった。経年変化では精神事案は10年で約2倍に増加していた。職種では労災認定事案全体で介護職員が3割、看護師が2割強、管理・事務・営業職が2割を占めた。医師の過労死等では過去10年の脳心事案は25件、精神事案は28件で、経年変化を見ると平成27年度以降の5年間では、その前の5年間に比べて精神障害の認定件数が8件から20件と2倍以上となり、医師の精神事案の増加が顕著であった。また、医師の精神事案は男性医師が半数、約4割が自殺事案であり、臨床研修医の占める割合は約半数であった。

④看護職員についてトラウマティックな出来事の体験を検討したところ、約半数は利用者からの暴力(性的なものも含む)であった。次いで多いのは利用者の自殺・死に遭遇であった。暴力等への遭遇は突然の被災、あるいは加害者の背景にある疾患情報が不明の例が多かった。被災後には周囲の者から促されて受診する例が多かった。

⑤IT産業における精神障害・自殺事案の分析では、女性の割合が増えていた。その要因として、全体的に仕事内容・仕事量の(大きな)変化が主であり、女性ではセクハラが増加傾向であった。

⑥建設業における過労死等事案を労務管理視点から分析すると、元方事業者には建設現場安全管理指針に基づく安全衛生管理の徹底、被災労働者の所属事業場には安全衛

生教育(職長教育、作業員への教育)、責任体制の徹底、被災労働者には自己の安全を守るための意識向上をより求めるべきことが示された。「極度の長時間労働」には発注者、元請や親事業等からの強い要請があり、下請けや子、孫企業は応じなければいけない契約主従関係という業界・企業風土が認められた。また、「(ひどい)嫌がらせ、いじめ、又は暴行を受けた」に係る精神障害の業務上事案では、暴言・暴力との関連が多かった。犯罪行為と思われるような事案も含まれていた。

⑦教育・学習支援業の精神障害事案を分析した結果、30歳代が多く、自殺事案は男性が大半であった。業務による心理的負荷では、男性は「恒常的な長時間労働」が主であり、次いで「上司とのトラブル」等であった。女性は特に「セクハラ」が年々増加していた。

⑧メディア業界(放送業、映像業、広告業、出版業、新聞業)の脳・心臓疾患と精神障害事案を分析したところ、発症時年齢は脳・心臓疾患では40歳代、精神障害では20歳代が最も多く、若年者の被災が際立っていた。事案数は広告業、映像業、放送業、出版業、新聞業の順に多かった。

⑨医療従事者の精神障害・自殺事案を分析した結果、医師の精神障害事案は増加傾向であり、臨床研修医が45%を占めた。精神疾患では、うつ病エピソードが52%であった。自殺事案は42%で、その約半数が臨床研修医であった。女性看護師においては、「悲惨な事故や災害の体験、目撃をした」が46%を占めていた一方で、「セクシュアルハラスメントを受けた」もみられた(11%)。

⑩業種・職種別の過労死等の特徴と分析結果活用の一環として、「自動車運転従事者(運輸業)」と「建設業」を対象として過労死等防止の啓発と防止策の普及を促進するファクトシート(FS)を作成した。

⑪脳・心臓疾患の過労死等事案におけるくも膜下出血の病態を検討した結果、業務上認定事案においてくも膜下出血の出血源として椎骨動脈解離が有意に多く発生しており、発症6か月前の時間外労働時間が80時間以上で発生リスクが有意に高かった。さらに、脳梗塞の発症事案について発症様式で分類し、業務上・外での差異を検討した結果、業務上認定事案における脳梗塞の病態としてラクナ梗塞が有意に多く発生しており、発症メカニズム

に高血圧が深く関与していることが示唆された。また、脳・心臓疾患既往者の分析によると、その割合は業務上事案の6%であった。既往歴の内訳では、業務上・業務外ともに狭心症40%、脳梗塞35%、心筋梗塞20-25%の順に多かった。業務外事案と比較し、業務上事案では脳・心臓疾患既往後0年の発症例の割合は有意に少なかった。逆に、既往後2年目の発症例の割合は有意に多かった。

⑫精神障害の労災認定事案におけるいじめ・暴力・ハラスメント並びに出来事と発症前6か月の時間外労働の類型を検討した結果、発症前6か月の時間外労働は短時間外労働、中時間外労働、長時間外労働、超長時間外労働の4群に分けられた。いじめ・暴力・ハラスメント関連の事案は、短時間外労働に多く、時間外労働や過剰な業務負荷が関連するのは20%程であった。いじめ・暴力・ハラスメントは死亡事案では少なかった。さらに、精神障害の労災認定事案を心理的負荷の強度を含めて検討したところ、「人間関係の問題関連」を含む、出来事の組み合わせが抽出された。経年的には単一項目認定が増加傾向であった。複数項目認定のうち約7割で、心理的負荷の評価が「強」の出来事が1つ以上認められた。精神障害の業務上及び業務外事案を分析したところ、女性、事務従事者、専門的・技術的職業従事者の割合が業務外事案で多かった。「上司とのトラブル」は、生存事案と自殺事案の両方、「同僚とのトラブル」は、生存事案のみで、業務外事案の件数が多かった。「上司とのトラブルがあった」、「(ひどい)嫌がらせ、いじめ、又は暴行を受けた」、「退職を強要された」、「セクシュアルハラスメントを受けた」、「業務に関連し、違法行為を強要された」等は自殺事案との負の関連が認められた。

⑬トラック運送業における運行パターンの定量解析した結果、勤務間インターバルは日勤夜勤混在型で最も長く14.5時間、短休息型で最短の4.4時間であった。短休息型の約半数では勤務間インターバル9時間未満であった。また、ウェブ調査によると、緑/白ナンバー間で車の大きさ、手待ち(荷待ち)時間、勤務間インターバル、アルコールチェック、体調不良時の対応行動に違いがあった。

⑭業務上認定された裁量労働制適用者の脳・心臓疾患事案と精神障害事案(平成23年度から令和元年度)について、被災者の労働

時間・職務遂行の状況や事業場・上司による職場管理などの視点から分析した。業務負荷として長時間労働のほか、精神障害事案では上司や同僚とのトラブルなど職場の人間関係が認められた。

⑮脳・心臓疾患の業務上事案について、1勤務あたり平均の拘束時間 16 時間以上の事案が 8%を占めた。「漁業」、「運輸業、郵便業」等の業種や、「農林漁業従事者」、「輸送・機械運転従事者」、「保安職業従事者」等の職種で1勤務あたりの拘束時間が長い。1か月あたりの拘束時間は、平均 314 時間であり、320 時間以上の事案が 33%であった。勤務間インターバルは、9時間未満の日が12%、9～11時間未満を合わせると、11時間未満の日は37%であった。その割合は、業種として「漁業」、「運輸業、郵便業」、「情報通信業」、「学術研究、専門・技術サービス業」、「宿泊業、飲食サービス業」、職種として「農林漁業従事者」、「輸送・機械運転従事者」、「サービス職業従事者」が高かった。

⑯過労死等による労災補償保険給付と疾病に関する評価では、平成 27 年度から 4 年間の業務上事案に対する給付総額は、脳・心臓疾患 120 億 6,103 万 6,386 円、精神障害 98 億 7,593 万 5,116 円であった。生存事案の給付については、療養補償給付、休業補償給付、休業特別支給金が主たる区分であった。給付総額では、脳・心臓疾患は療養補償給付の割合が多く、精神障害は休業補償給付の割合が多かった。生存事案について、療養補償給付の一人当たりの給付金額の平均は、脳・心臓疾患では 965 万 4 千円、精神障害では 115 万 9 千円であった。休業補償給付の一人当たりの給付金額の平均は、脳・心臓疾患では 349 万円、精神障害では 493 万 3 千円であった。一方、平成 27～29 年度の業務上事案について、支給決定後 1 年間の被災者 1 人当たりの給付金額の平均は脳・心臓疾患の生存事案 1,289 万円、死亡事案 1,140 万円、精神障害の生存事案 429 万円、死亡事案 1,214 万円であった。脳・心臓疾患の生存事案では療養補償給付、精神障害の生存事案では障害補償年金が最も多かった。死亡事案では、脳・心臓疾患と精神障害のいずれにおいても遺族補償一時金が最も多かった。また、労災補償保険給付額から推定された業務上認定事案の賃金の特徴を調べた結果、推定月収の平均は

全体で 385,272 円、脳・心臓疾患 383,031 円、精神障害 386,638 円であった。特に生存事案では平均絶対誤差は 155,125 円と、賃金の推定精度は高くなかった。賃金と関連した要因として雇用形態、発症時年齢、いくつかの業種、職種、疾病が示された。全国の労働者の賃金情報との比較では、脳・心臓疾患及び精神障害の女性の生存事案の 40 代と 50 代、男性の生存事案の 60 代以上、男性の死亡事案の 20 代以下などで、労災認定事案の賃金は全国の労働者の賃金よりも高かった。

2. 疫学研究

職域コホート研究では、令和 5 年度は計 106,954 人が研究協力に同意し、参加率は 45%となった。過去 6 か月間の勤怠記録による長時間労働のあり方とストレスチェック結果との関連を検討した結果、イライラ感、不安感、抑うつ感、疲労感は月平均労働時間や月時間外 45 時間以上の頻度に応じて増加したが、その関連は疲労感でより強かった。長時間労働の頻度と統計的に有意であった健康診断指標は BMI、収縮期血圧、空腹時血糖であった。令和 2～3 年度の継続参加者のうち 15,406 人のデータを粗分析した結果から「心理的な仕事の負担の量」のストレス得点の高さは血圧、体格など 7 項目の検査値異常に関連した。同様に「心理的な仕事負担の質」は血圧、肝機能、体格など 9 項目、「身体的負担感」は血圧、血糖など 5 項目に関連していた。「仕事のコントロール度」の得点の高さは検査異常値との関連は示されなかった。前年度の検査値異常の有無を解析モデルで調整した結果では「心理的な仕事の負担の量」、「心理的な仕事負担の質」、「身体的負担感」の高さは共通して血圧値、空腹時血糖値の異常に関連していた。

現場介入研究では、交替制勤務看護師を対象に、深夜勤後の勤務間インターバルの確保による「深夜勤-深夜勤-準夜勤-準夜勤」の現行シフトから、深夜勤後に休日を挿入して勤務間インターバルを確保する「深夜勤-深夜勤-休日-準夜勤-準夜勤」の介入シフトで 2 か月間働いた変化を検討した。その結果、残業時間の増加等の変化もなく、疲労や睡眠、ストレス等の心理・行動指標で改善効果が観察された。交替制勤務介護労働者を対象に、2 か月間の介入条件及び統制条件をクロスオーバー

デザインにより実施した。介入条件は、対象介護労働者へのヒアリングから示された疲労回復に望ましい交替制勤務シフトの諸条件を AI 勤怠スケジューラーに反映させてシフトを作成した。統制条件では従来通り、シフト管理者が手動でシフトを作成した。介入条件では対象条件に比べて、疲労やストレスに有意差はなかったものの、眠気は低い傾向が認められた。一方で、介入条件では深いノンレム睡眠は有意に増加し、レム睡眠と総睡眠時間は増加傾向が認められた。長距離トラックドライバーの勤務中の血圧上昇に関連する労働休息条件を検討したところ、既往歴有無にかかわらず、休日明けの出勤時に高くなることが示された。また、出勤時の収縮期血圧上昇は早い出勤時刻と関連することが示された。トラックドライバー、内勤者、倉庫作業者を対象に、2 か月間の介入条件(指輪型生体デバイスによる睡眠等評価+スマートフォンアプリによる睡眠状況の確認)と2か月間の統制条件での調査をクロスオーバーデザインで行った。その結果、調査前半の2 か月間ではオーラリング装着によって睡眠に対する意識や行動が、わずかではあるが変化した。しかし、疲弊度や回復要求度に介入効果は認められなかった。「過労徴候しらべ」改定過程で、過労徴候は疲労感と睡眠障害、精神症状、極度の身体不調の3要素から構成される可能性が示唆された。情報通信業労働者を対象とした検討から、労働者の環境要因、心理社会的ストレス、メンタルヘルスと爪のコルチゾールの関連が明らかになれば、この爪のバイオマーカーが過重労働による生体負担の評価指標として有用である可能性が示唆された。このほか、勤務時間外に届く仕事関連連絡に係る時間が長いと、在宅勤務より出社勤務で疲労回復を妨げる可能性を明らかにした。

3. 実験研究

心血管系負担について、運輸会社から収集した運行日誌を分析し、休憩の時間と回数などのデータに基づいて実験プロトコルを設計した。そのプロトコルに基づいて、ドライビングシミュレータを用いていくつかの休憩条件を検証した結果、1 時間程度の昼休憩の確保が望ましいことを示した。なお、長時間労働による心血管系負担の増大は、特に高齢労働者で大きいこと、並びに短時間睡眠後の長

時間労働が労働者の心身に悪影響を及ぼすことを明らかにした論文をそれぞれ発表した。

過労死関連疾患予防のための体力評価について、労働者を対象に、労働者生活行動時間調査票(WLAQ)、J-NIOSH ステップテスト(JST)それぞれによる推定 $\dot{V}O_{2max}$ で分類した心肺持久力(CRF)群(低位、中位、高位)と健診データから求めた心血管疾患リスクとの関連を検討した結果、両評価法とも推定 $\dot{V}O_{2max}$ が高いほど疾病リスクが有意に低下した。労働者自身がスマートウォッチで心拍を計測する方法として開発した JST2 による心配持久力(CRF)推定の信頼性評価値は 0.96 (0.94-0.97)と良好であった。CRF 値と心血管疾患リスクに関する前向き疫学調査では、“CRF「高」かつ勤務時間「短」”群を基準(1.0)とした場合、“CRF「低」かつ勤務時間「長」”群の上記リスクを有するオッズ比は 5.36 (1.44-20.0)で有意であった。

4. 対策実装研究

ステークホルダー会議(年2回)とタスクフォース会議(ほぼ毎月)を通じて、次の5アクションを実施した:(1)ハイリスクドライバー把握ツールの作成と、受診を促す仕組みの構築(地域モデルへ展開)を試みた。ハイリスクドライバー把握のための手引き(評価ツール開発)を作成し、業界団体会員企業に配布した。(2)生活時間調査による建設技術者(施工管理者)の仕事の負担の特性と背景が把握できた。その成果を基に、2024 年問題への対応策を事業場と協議した。(3)労務・安全衛生のリソースが乏しい中小事業場において、現場で使いやすい各種ツールを開発し、有用性を検証した。(4)ウェアラブルデバイスを活用した労働者の健康・行動変容を促す取組と、支援ツール(教材)の開発を進めた。(5)業種、職種の仕事の特性や、企業ごとの方針、既存の取り組みや制度(安全衛生委員会、安全ミーティング等)を考慮した介入として、参加型職場改善の重要性が示された。

第三期(令和3年度から令和5年度)の研究の結果について、各研究班の分担研究報告書のタイトル、研究分担執筆者、研究で得られた主な知見を概観できる一覧表を図表5に示した。

図表 5 本研究の 4 つの研究分野別の各分担研究の概要
 (令和 3 年度 : 分担研究報告数 20 件)

No	分類	研究分担執筆者	タイトル	研究から得られた主な知見
1	事案	佐々木毅	脳・心臓疾患及び精神障害の労災認定事案の経年変化解析	平成 22～令和元年度の労災認定事案では、性別、年齢等の基本属性には顕著な差異は見られなかったものの、職場環境等については近年に変化が見られた。
2	事案	茂木伸之	道路貨物運送業における精神障害等の事案の解析	発症要因における交通事故への対応は、他の産業ではない事案と見られ、道路貨物運送業の精神障害等の特徴と考えられる。上司とのトラブルが認定理由ではないが、これが起因となる精神障害等の発症事案が見られた。また、運行パターンは、深夜・早朝時間帯に多いことが明らかになった。
3	事案	吉川 徹	医師の過労死等の労災認定事案の特徴に関する研究	医師の過労死等では精神障害の件数が増加している。医師の精神障害の過労死等では男性が半数、臨床研修医が半数、自殺事案が 4 割であった。
4	事案	川上澄香	看護職員におけるトラウマティックな出来事に関する分析	暴力等に遭遇したケースが多かった。事件の背景にある加害者側の疾患等が不明で、突然被災しているケースが多かった。今後、より質の高いケアを提供し、看護職員がやりがいをもって安心・安全に働ける職場を作るためにも、各種疾患への看護職員の理解を深めるような機会が必要であると思われた。
5	事案	高橋有記	IT 産業における精神障害・自殺事案の解析	IT 産業においては、女性の割合が増えており、精神障害の要因としては、仕事内容・仕事量の(大きな)変化が主な要因であり、女性では、セクハラが増加傾向であった。IT 産業においては、長時間労働に関連する負荷業務などの対策とともに、女性のセクハラ対策が課題であると考えられた。
6	事案	中辻めぐみ	建設業における過労死等事案の労務管理視点からの分析～建設業における精神障害認定事案の社会保険労務士の視点に基づくケーススタディ研究～	元方事業者には、建設現場安全管理指針に基づく安全衛生管理の徹底と、被災労働者の所属事業場には、安全衛生教育(職長教育、作業員への教育)、責任体制の徹底を、被災労働者には自己の安全を守るための意識向上が望ましいと思われる。さらに重篤な災害が発生する可能性のある作業では災害後のメンタルヘルス対策が重要と思われる。

No.	分類	研究分担 執筆者	タイトル	研究から得られた主な知見
7	事案	守田祐作	脳・心臓疾患の過労死等事案におけるくも膜下出血の病態に関する研究	業務上認定事案においてくも膜下出血の出血源として椎骨動脈解離が有意に多く発生しており、発症 6 か月前の時間外労働時間が 80 時間以上で発生リスクが有意に高かった。くも膜下出血による過労死発症メカニズムに椎骨動脈解離が関与している可能性が示唆された。
8	事案	酒井一博	トラック運送業における運行パターン及び精神案件の特徴	運行パターンには事業者の特徴が現れ、また各パターンは特徴的な勤務実態を有する。精神障害事案において、「運輸、郵便」と他の業種の特徴を区別する重要なイベントが推定された。
9	事案	木内敬太	精神障害の労災認定事案におけるいじめ・暴力・ハラスメント並びに出来事と発症前 6 か月の時間外労働の類型に関する研究	発症前 6 か月の時間外労働は短時間外労働、中時間外労働、長時間外労働、超長時間外労働の 4 群に分けられる。いじめ・暴力・ハラスメント関連の事案は、短時間外労働に多く、時間外労働や過剰な業務負荷が関連するのは 20%程度。いじめ・暴力・ハラスメントは、死亡事案では少ない。
10	事案	池添弘邦	裁量労働制適用者の労働時間と働き方：JILPT 調査データを用いた基礎的検討—裁量労働制適用者の業務上認定事案から読み取れる論点に則して—	今後は、“働き方”それ自体の在り方について様々な視点から、過労死・過労自殺等労災保険事故の予防が検討される必要性が示唆される。
11	事案	高見具広	過労死等の事案における労働時間の認定に関する事例研究	過労死等防止における企業の労務管理は労働時間の形式的な把握・管理だけでは不十分である。労働時間の客観的な記録による適正な把握と共に、長時間労働防止、労働者の健康確保のために業務量や業務スケジュール、業務負荷配分が適切であるか、労働者が過重な負荷を抱えないための進捗管理が求められる。
12	事案	高橋正也	過労死等による労災補償保険給付と疾病に関する評価	平成 27～29 年度に支給決定された脳・心臓疾患と精神障害に関する労災への平成 27 年度から 4 年間の給付金額は、約 219 億 3 千万円であった。生存事案では、脳・心臓疾患の療養補償、精神障害の休業補償が主であった。属性の違いによる給付金額の違いは、疾患の療養に要する費用や、支給決定の数等を反映していると考えられる。

No.	分類	研究分担 執筆者	タイトル	研究から得られた主な知見
13	疫学	高橋正也	労働安全衛生総合研究所(JNIOSH)コホート研究	月当たり平均労働時間が180時間以上になると、活気のなさ、イライラ感、不安感、抑うつ感に影響が生じ、さらに205時間以上になると疲労感に影響が現れた。月当たり残業45時間以上となる頻度が過去6か月間に2回以上で不安感、3回以上でイライラ感と抑うつ感、4回以上で疲労感が高まった。
14	疫学	久保智英	深夜勤後の勤務間インターバルの確保による3交替勤務スケジュールへの介入調査	「深夜勤-深夜勤-準夜勤-準夜勤」の交替勤務シフトから、深夜勤後に休日を挿入して勤務間インターバルを確保する「深夜勤-深夜勤-休日-準夜勤-準夜勤」の介入シフトで2か月間、働いた結果、残業時間の増加等の変化もなく、疲労や睡眠、ストレス等の心理・行動指標で改善効果が観察された。
15	疫学	松元 俊	長距離トラックドライバーの勤務中の血圧値を上昇させる労働休息条件の検討	長距離トラックドライバーの勤務中の血圧値は、既往歴有無にかかわらず休日明けの出勤時に高くなることが示された。また、出勤時の収縮期血圧を上昇させるのは、早い出勤時刻であることが示された。
16	疫学	池田大樹	勤務時間外の仕事の連絡と在宅勤務頻度がIT労働者の心身に及ぼす影響	勤務時間外における仕事の連絡の悪影響は在宅や出社という勤務のあり方により異なった。とりわけ、出社勤務で勤務時間外での仕事に関する頻繁な連絡がある場合、オフでも仕事に心理的に拘束され、精神健康度が悪化する可能性が示された。
17	疫学	西村悠貴	疫学調査効率化を目的とした疲労 Checkerのウェブアプリ化	疫学的な調査研究で参加者が保有しているスマートフォンを使えるように、オンライン実験に対応したウェブアプリを開発した。従来の質問紙や実験用デバイスを郵送する方法と比較して大幅に参加者の数を増やすことができ、フルデジタル化によってデータ解析までの日数も大幅に短縮することができた。
18	実験	劉 欣欣	ドライバーの心血管系負担に対する休憩効果の検討	長時間労働は心血管系の負担を増大させるが、特に高齢者の負担が大きいこと、短時間睡眠後で悪影響が大きいことが示された。過労死が多い運輸業では拘束時間が長く、勤務中の休憩が短いことから、勤務中の心血管系負担を蓄積しやすいことが考えられる。本研究では、その軽減策を検討していく。

No.	分類	研究分担 執筆者	タイトル	研究から得られた主な知見
19	実験	松尾知明	労働者の体力を簡便に測定するための指標開発	労働者向けに開発した「労働者生活行動時間調査票(WLAQ)」と「簡易体力検査法(JST)」が心肺持久力(CRF)の評価法として有用であり、特に WLAQ は疫学調査への活用が期待できる。
20	対策 実装	酒井一博	過労死等の防止のための対策実装に関する研究	事業者、有識者から構成されたステークホルダー会議における過労死等の防止対策実装の方策を検討した結果、ハイリスク者の企業による管理、重層構造の課題、小規模事業場への健康管理の支援、行動変容の促進方法、長時間労働とストレスの対策としての職場環境改善の推進方策が過労死等の対策実装の課題として明らかになった。

(令和4年度：分担研究報告数 25 件)

No.	分類	研究分担執筆者	タイトル	研究から得られた主な知見
1	事案	佐々木毅	脳・心臓疾患及び精神障害の過労死等事案の経年変化解析	(業務上外の経年変化) ・過労死等の過去 11 年(H22-R02)の業務上事案、過去 10 年(H22-R01)の業務上外事案のデータベースを構築した。過労死等の業務上事案数の増減に対する業種別件数及び業務上外事案の経年変化を示した。
2	事案	茂木伸之	道路貨物運送業における精神障害等の事案の解析	(重点業種:自動車運転従事者) ・道路貨物運送業の長時間労働の要因は、運転業務では「入社時から長時間」、非運転業務では「配置転換・転勤」が多く、職種ごとの仕事内容に伴う危険要因を考慮した精神健康対策も必要と示唆された。
3	事案	中辻めぐみ	建設業における過労死等事案の労務管理視点からの分析ー建設業における精神障害認定事案の社会保険労務士の視点に基づくケーススタディ研究ー	(重点業種:建設業、社会保険労務士視点での分析) ・長時間労働の背景に発注者、元請や親事業等からの強い要請があり、下請けや子、孫企業は応じなければいけない契約主従関係と業界、企業風土が確認された。長時間労働を容認する風土の改善が喫緊の課題であり、同時にコンプライアンス意識の醸成、企業側の業務量管理、それらを理解した人材育成が急がれる。
4	事案	高橋有記	教育・学習支援業における精神障害・自殺事案の解析	(重点業種:教職員) ・教育・学習支援業においては、女性の割合が増えており、男女ともにいじめ・嫌がらせへの対策が重要である。自殺の事案のなかでは、男性が多く、初回の自殺企図で既遂に至っている事案が多いことから、自殺対策の推進が喫緊の課題であると考えられた。
5	事案	吉川 徹	メディア業界における過労死等の労災認定事案の特徴に関する研究	(重点業種:メディア業界) ・メディア業界でも精神障害による過労死等が増加している。精神障害は若年者、脳・心臓疾患は管理業務にさしかかる年代への対策、急激に変化する業務の質と量への対応支援が過労死等防止に重要である。
6	事案	守田祐作	脳・心臓疾患の過労死等事案における脳梗塞の病態に関する研究	(病態に関する医学研究:脳・心臓疾患) ・業務上認定事案における脳梗塞の病態としてラクナ梗塞が有意に多く発生しており、過労死等の発症メカニズムに高血圧が関与している可能性が示唆された。

No.	分類	研究分担 執筆者	タイトル	研究から得られた主な知見
7	事案	木内敬太	精神障害の労災認定事案におけるいじめ・暴力・ハラスメント—心理的負荷の強度についての検討	(病態に関する医学研究:精神障害) ・精神障害の労災認定事案の 85.6%は、心理的負荷「強」の出来事を伴うが、全体の半数以上が複数項目認定事案である。心理的負荷の「中」以下にも注目すべきである。事後に適切に対処するだけでなく、出来事の未然防止の取り組みが必要である。
8	事案	酒井一博	トラック運送業における運行パターンの定量解析と運輸小規模事業場の特徴	(重点業種:自動車運転従事者) ・運行の個人パターンとその安定性は、ドライバーの運行の特徴を表現していた。Web 調査から、一概に小規模事業場だから労働環境の整備や健康管理に問題があるとは言えないことが分かった。今後は大規模事業場の実態と比較しての研究が重要と考えられた。
9	事案	池添弘邦	裁量労働制適用者の労災認定事案の分析(続編)	(社会科学視点:裁量労働) ・みなし時間に見合った業務量とすることがまず重要である。また、日々の出退勤管理を通じた労働時間管理を適正に行い、これにより、健康福祉確保措置並びに苦情処理措置を適正に運用していくことも重要である。さらに、管理職による職場管理が重要であり、企業としても、裁量労働制適用者の管理と同時に、職場管理を行う管理職へのサポートが必要である。
10	事案	高見具広	脳・心臓疾患の労災認定事案における就業スケジュールの分析	(社会科学視点:就業スケジュール) ・長時間労働を是正すべきであるのはもちろんであるが、同時に、労働者の健康確保のためには、労働時間の「長さ」だけでなく、適正な就業スケジュールも重要である。
11	事案	高橋正也	過労死等による労災補償保険給付と疾病に関する評価—支給決定後1年間の1人当たりの給付金額	(労災補償保険給付分析) ・平成 27 年度から 29 年度に支給決定された労災補償保険給付の支給決定後 1 年間の 1 人当たりの給付金額の平均は、脳・心臓疾患の生存事案で 1,289 万 2,488 円、死亡事案で 1,139 万 5,454 円、精神障害の生存事案で 428 万 7,992 円、死亡事案で 1,213 万 8,758 円であった。1 人当たりの給付金額や給付総額、主たる給付の種類の内訳は、疾患、性別、年代、業種、職種によって異なっていた。
12	疫学	高橋正也	労働安全衛生総合研究所(JNIOSH)コホート研究	(JNIOSH コホート研究) ・長時間労働が繰り返されることにより血中脂質値や血糖値は悪化する可能性があることが示唆された。

No.	分類	研究分担 執筆者	タイトル	研究から得られた主な知見
13	疫学	久保智英	交替勤務に従事する介護労働者を対象とした勤怠スケジューラーによる介入調査の予備的解析	(介入研究:介護労働者) ・AIを活用した勤怠スケジューラーによって自動作成された交替勤務シフトは交替勤務に従事する介護労働者の負担軽減に貢献できる可能性がうかがえた。調査継続中で、その効果の最終的な検証は調査終了時に行う予定である。
14	疫学	松元 俊	地場トラックドライバーの職場における血圧上昇要因の検討	(介入研究:トラックドライバー) ・夜勤への従事は脳・心臓疾患のリスクになり得ることが確認され、日々の勤務において拘束時間が長くなること、勤務間インターバルや睡眠時間が短くなることで血圧値が上昇した。毎日の健康管理では、個人が意識的に睡眠時間を確保するだけでなく、会社による夜勤スケジュール調整が重要であることがうかがえた。
15	疫学	池田大樹	勤務時間外の仕事の連絡と在宅勤務頻度がIT労働者の心身に及ぼす影響－9日間の観察調査研究－	(疫学研究:つながらない権利) ・勤務時間外における仕事の連絡の悪影響は在宅や出社という勤務のあり方により異なった。とりわけ、出社勤務で勤務時間外の仕事の連絡が長いと、就床前の覚醒度が高く、疲労感や抑うつ感も強かった。
16	疫学	西村悠貴	夜勤・交替勤務看護師におけるシフト別のセルフモニタリング能力について	(疫学研究:夜勤・交替勤務の健康影響) ・交替勤務に従事することは、ヒトが本来持つ生体リズムに逆らいながら働くことが求められる。これまでの研究で、こういった働き方による様々な安全・健康上のリスクが指摘されてきたが、自己のパフォーマンスを認知する心理的な機能にも影響があることが示された。
17	疫学	井澤修平	過重労働の生体負担を評価するバイオマーカーの検討－看護師とトラックドライバーを対象とした研究の再分析－	(観察研究:バイオマーカー指標) ・交替勤務に従事する看護師やトラックドライバーのデータを再分析した結果、唾液中CRPは、夜勤回数や仕事の負担感、睡眠時間、運行パターン等と関連していた。このことから、今後のデータの蓄積が求められるものの、唾液中CRPが過重労働による生体負担の評価指標として有用であることが示唆される。
18	実験	劉 欣欣	ドライバーの心血管系負担に対する休憩効果の検討	(実験研究:ドライバーの心血管系負担) ・長時間労働は労働者の心身疲労と心血管系負担を増大するが、作業パフォーマンスの低下を伴わない場合がある。また、過労死等が多い運輸業では拘束時間が長いことから、勤務中の心血管系負担を蓄積しやすく、適切な休憩を確保することが重要であると考えられる。本研究では、その軽減策を検討した。

No.	分類	研究分担 執筆者	タイトル	研究から得られた主な知見
19	実験	松尾知明	労働者の体力を簡便に測定するための指標開発	(実験研究:心肺持久力の評価と応用) ・労働者向けに開発した「労働者生活行動時間調査票(WLAQ)」と「簡易体力検査法(JST)」が心肺持久力(CRF)の評価法として有用であり、特に WLAQ は疫学調査への活用が期待できる。
20	対策実装	酒井一博	過労死等の防止のための対策実装に関する研究	(実装研究:アクション1~5の取り組みの総括) ・過労死等の予防対策の実装に向けて5つの対策アクションを立案し、実装に向けての情報と実行に向けた準備が行われた。
21	対策実装	酒井一博	アクション1: ハイリスクドライバーの把握と対策	(実装研究1:脳・心臓疾患高リスク者対策) ・ドライバーの健診受診率は高いが、約1割は脳・心臓疾患の高リスク者に該当し、かつ、ハイリスクドライバーの約4割は病院に通院していなかった。健診受診率向上だけでなく、高リスクのドライバーが適切な医療管理下となる対策が必要である。
22	対策実装	酒井一博	アクション2: 重層構造の理解と深堀り	(実装研究2:重層構造への対応) ・業種による重層構造の背景や実態の差異、職種や顧客の特性に関する情報が収集された。これを考慮した対策の検討が必要である。
23	対策実装	吉川 徹	アクション3: 中小事業場への産業保健支援・サービス手法の検討	(実装研究3:中小事業場支援) ・中小事業場では労務・安全衛生の十分な知識の理解と実践に課題がある。現場が取り組みやすい体制整備や支援と浸透させる方策は、企業目標を中心にした工夫が必要であることが分かった。
24	対策実装	酒井一博	アクション4: 生活習慣の改善の取り組み	(実装研究4:生活習慣の改善) ・過労死等防止対策実装案の立案にあたっては、産業現場のニーズとのマッチングを行った上で、実現可能性を高める必要がある。生活習慣を改善する取り組みについては、労働者自身の自主性を高めるような対策実装が重要である。
25	対策実装	酒井一博	アクション5:改善型チェックリストの開発と実践	(実装研究5:改善型チェックリスト開発) ・職場改善に関する運送会社の状況・ニーズの情報が得られ、その結果に基づき、運輸版の改善チェックリストを整えた。次年度より実施利用予定である。

(令和5年度：分担研究報告数 23 件)

No.	分類	研究分担執筆者	タイトル	研究から得られた主な知見
1	事案	佐々木毅	脳・心臓疾患及び精神障害の過労死等事案の経年変化解析	(業務上外の認定事案の経年変化) ・過労死等の業務上事案数の増減に対する業種別件数並びに業務上と業務外事案の属性等の違いが分かった。
2	事案	茂木伸之	道路貨物運送業における精神障害等の業務外事案の解析	(重点業種:自動車運転従事者の精神障害) ・道路貨物運送業の労災不支給事案では、対人関係の「上司とのトラブル」の上司は管理職以上が多く、これらの管理職を対象としたハラスメント研修が必要と示唆された。また、既往歴が有りの場合、疾患(症状)の発症・悪化(または継続)が入社日から 30 日未満の時期に多いことが明らかになった。
3	事案	中辻めぐみ	建設業における過労死等事案の労務管理視点からの分析ー建設業における精神障害認定事案の社会保険労務士の視点に基づくケーススタディ研究ー	(重点業種:建設業、社労士視点からの分析) ・建設業では「(ひどい)嫌がらせ、いじめ、又は暴行を受けた」に関連した心理的負荷要因で精神障害の労災認定を受けている事案には、暴言・暴力に関連した事案が多い傾向にあった。犯罪行為と思われるような事案も含まれており「嫌がらせ・いじめ(パワーハラスメント)」を容認する企業や職場風土の改善が喫緊の課題である。コンプライアンス意識の醸成、メンタルヘルス対策の導入、就業規則の整備、コミュニケーション能力の改善も必要である。
4	事案	高橋有記	医療従事者における精神障害・自殺事案の解析	(重点業種:医療従事者の精神障害) ・医師においては、臨床研修医の精神的支援及び自殺対策が肝要である。看護師においては、悲惨な事故や災害の体験、目撃をした看護師に対しての包括的な支援に加えてハラスメントへの対策も肝要である。
5	事案	吉川 徹	業種・職種別の過労死等の特徴と分析結果活用に関する研究	(重点業種:自動車運転従事者、建設業の FS) ・「自動車運転従事者(運輸業)」と「建設業」を対象として過労死等防止の啓発と防止対策の普及を促進するファクトシート(FS)を作成した。対象者を明確にし、伝える内容、伝え方などを検討する必要がある。
6	事案	守田祐作	脳・心臓疾患の過労死等事案における脳・心臓疾患既往者の実態に関する研究	(病態に関する医学研究:脳・心臓疾患) ・今後、CVD(脳・心臓疾患)既往者への適切な就業上の措置(そのための医師への意見聴取)、CVD 発症者の主治医から事業場へ積極的な情報提供が必要である。また、既往後経過年数分析からは、発症から 2 年間は過重負荷により CVD 発症リスク増加が示唆され、少なくともその期間は時間外労働の制限が望まれる。

No.	分類	研究分担 執筆者	タイトル	研究から得られた主な知見
7	事案	木内敬太	精神障害の労災認定事案におけるいじめ・暴力・ハラスメントー業務上及び業務外事案の出来事の特徴と自殺事案との関連ー	(病態に関する医学研究:精神障害) ・いじめ・暴力・ハラスメントに関連する事案の多くは、業務上と業務外の両方で同等に認められた。いじめ・暴力・ハラスメントに関連した事案では、自殺が起こりにくい可能性があるが、労災申請されにくい可能性もあり、引き続き、支援・相談体制の確保と、実態解明の研究が必要である。
8	事案	酒井一博	トラック運送業における運行パターンの定量解析	(重点業種:自動車運転従事者) ・特定の運行パターンやパターンの安定性において、ドライバーに対する運行の過重性が異なる可能性が示唆された。Web 調査から、同じトラックドライバーであっても、業種別に対策を検討する必要がある項目があることが示された。
9	事案	高見具広	脳・心臓疾患の労災認定事案における拘束時間、勤務間インターバルの分析	(社会科学視点:就業スケジュール分析) ・労働者の健康確保のためには、長時間労働の是正は当然のことであるが、同時に、休息時間の確保にも留意して、働き方を見直す必要がある。
10	事案	高橋正也	過労死等による労災補償保険給付と疾病に関する評価ー支給金額から推定された労災認定事案の賃金の特徴ー	(労災補償保険給付分析) ・労災補償保険給付から労災認定事案の賃金を推定することができた。特に、生存事案では中高年の男性と女性、死亡事案では20代以下の男性などで労災認定事案の賃金が高かったことから、今後その背景についての詳細な検討が望まれる。
11	疫学	高橋正也	労働安全衛生総合研究所(JNIOSH)コホート研究	(JNIOSH コホート研究) ・仕事要求度はその後の健康状態にも強く影響する可能性がある。
12	疫学	久保智英	職場の疲労特性を反映したAI 勤怠スケジューラーによる交替勤務介護労働者への介入調査	(介入研究:勤怠スケジューラー活用) ・職場の疲労特性に応じたオーダーメイドのシフト作成を AI 勤怠スケジューラーによって実施した結果、客観的な睡眠指標において改善傾向が認められた。
13	疫学	松元 俊	指輪型生体デバイスの活用によるトラックドライバーへの睡眠介入効果の検討	(介入研究:指輪型生体デバイスの活用) ・2 か月間のオーリングの装着による睡眠の「見える化」は、わずかではあるが睡眠に対する意識と行動を変化させることが示された。このことは、客観的な睡眠測定結果をもってあらためて確認したい。

No.	分類	研究分担 執筆者	タイトル	研究から得られた主な知見
14	疫学	木内敬太	COSMIN 指針に基づいた「過労徴候しらべ」の改訂—改訂版尺度の開発と内容的妥当性、構造的妥当性及び内的整合性の検証—	(疫学研究:「過労徴候しらべ」の改定) ・過労徴候は、疲労感と睡眠障害、精神症状、極度の身体不調の 3 要素から構成される可能性が示唆された。過労徴候は、労働時間、過重労働、女性、特定の年代、業種、職種、雇用形態と関連していた。
15	疫学	井澤修平	情報通信業の労働者の労働環境要因と爪に含まれるコルチゾールの関連	(観察研究:生体コルチゾールの指標研究) ・本稿では、情報通信業の労働者を対象とした爪のコルチゾールの研究の概要と、現時点までに得られたオンライン調査の結果を報告した。情報通信業の労働者の環境要因、心理社会的ストレス、メンタルヘルスと爪のコルチゾールの関連が明らかになれば、この爪のバイオマーカーが過重労働による生体負担の評価指標として有用であることが示唆される。
16	実験	劉 欣欣	ドライバーの心血管系負担に対する休憩効果の検討	(実験研究:ドライバーの心血管系負担) ・過労死等が多い運輸業では拘束時間が長く、休憩が不規則で取りにくいことから、勤務中の心血管系負担を蓄積しやすいと考えられる。本研究では、ドライバーの勤務中の心血管系負担を緩和するため、1時間程度の昼休憩の確保が望ましいことを示した。
17	実験	松尾知明	過労死関連疾患の予防対策に向けた体力評価研究	(実験研究:心肺持久力評価研究) ・個々の労働者が CRF を自己評価する方法として JST2 は有用である。過労死関連疾患の予防対策では、労働時間等の労働環境を改善する対策を進めると共に、労働者個人の健康管理に資する対策も必要である。
18	対策 実装	酒井一博	過労死等の防止のための対策実装に関する研究	(実装研究:アクション1~5の取り組みの総括) ・業種・職種や各企業の規模や体制などの特性と実情を考慮した現場目線による対策の普及方策の重要性が示された。
19	対策 実装	酒井一博	アクション1:ハイリスクドライバーの把握と対策	(実装研究1:ハイリスクドライバー) ・ハイリスクドライバー把握ツールを作成(ツール開発)し、受診を促す仕組みの構築(地域モデルへ展開)を試みた。ハイリスクドライバー把握のための手引き(評価ツール開発)を作成し、業界団体会員企業へ配布した。

No.	分類	研究分担 執筆者	タイトル	研究から得られた主な知見
20	対策 実装	酒井一博	アクション 2: 重層構造の理解 と深掘り	(実装研究 2: 重層構造対策) ・生活時間調査による建設技術者(施工管理者)の仕事の負担の特性と背景が把握できた。客観的な調査データのフィードバックとグループ討議によって、管理者と作業者における改善の必要性の認識が促進され、対策の検討と共有が進んだ。一方で、納期の改善など構造的な課題への対策が強く求められる。
21	対策 実装	吉川 徹	アクション 3: 中小事業場への 産業保健支援・ サービス手法の 検討	(実装研究 3: 産業保健サービスモデル構築) ・中小事業場では労務・安全衛生に関する十分な知識の理解と実践をすることには課題がある。現場の優先事項を重視した取組みやすい体制整備や支援が必要であり、それを浸透させる方策は、現場目線での工夫が必要であることが分かった。
22	対策 実装	酒井一博	アクション 4: 生活習慣の改善 の取組み	(実装研究 4: 生活習慣改善支援研究) ・ウェアラブルデバイスを活用した労働者の健康・行動変容を促す取組みと、支援ツール(教材)の開発に取り組んだ。本人にしかできない衛生(健康)への取組みの促進と教育(ツール開発)が重要である。
23	対策 実装	酒井一博	アクション 5: 改善型チェック リストの開発と実践	(実装研究 5: 過労死等防止のための職場改善) ・業種、職種の仕事の特性や、企業ごとの方針、既存の取組みや制度(安全衛生委員会、安全ミーティング等)を考慮した介入の重要性が示された。

D. 考察

事案研究では、過労死等の発症に関する労災認定事案の経年変化、重点業種の解析、過労死等の病態や負荷要因の解析、トラックの運行パターンと小規模事業場の特徴に関する研究、社会科学的な視点について知見が得られた。

疫学研究では、コホート研究、現場介入研究の手法を通じて、労働環境要因と過労死等関連疾患の発症リスクの関連性や防止策につながる職場環境、働き方への介入効果などについて知見が得られた。

実験研究では、短時間睡眠後の長時間労働による労働者の心身への影響、長時間労働による心血管系負担の増大が、特に高年齢労働者で大きいこと等を明らかにした。体力科学の知見を活用して開発された質問票(WLAQ)と簡易体力検査法(JST)の測定手法について、疾病発症との関連性が強く指摘されている心肺持久力(CRF)の評価法としての有用性が確認された。

対策実装研究では、業種・職種や各企業の規模や体制などの特性と実情をさまざまな関係者へのヒアリングや現場の実態調査によって把握し、それらを考慮した現場目線による対策の普及方策の重要性が示された。

E. 結論

事案研究、疫学研究、実験研究、対策実装研究の4つのアプローチ(分野)から、我が国における過労死等の実態解明とともに有効な防止対策像について多くの示唆が得られた。今後、脳・心臓疾患だけでなく、申請件数・認定件数ともに増加傾向が続く精神障害・自殺に重点を置いた過労死等防止対策研究と、包括的な研究体制の再考、学際的な対策実装研究の継続によって総合的な過労死等防止を進めることが期待される。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表(統括)

1. 論文発表

1-1. 論文(査読あり)

- 1) Jaehoon Seol, Rina So, Fumiko Murai, Tomoaki Matsuo. Relationship between

rest-activity rhythms and cardiorespiratory fitness in middle-aged workers: a cross-sectional study with non-parametric analysis using accelerometers worn on the thigh. *BMC Public Health*. 2024; 24(1): 62.

- 2) Tomohiro Ishimaru, Makoto Okawara, Toru Yoshikawa, Michiko Kido, Yoshifumi Nakashima, Anna Nakayasu, Kokuto Kimori, Satoshi Imamura, Kichiro Matsumoto. Trends in Physician Work Schedules in Japan: Employed Physician Surveys of the Japan Medical Association in 2009, 2015, and 2021. *JMA journal*. 2023; 6(3): 339-341. doi 10.31662/jmaj.2023-0013.
- 3) Yusaku Morita, Toru Yoshikawa, Masaya Takahashi. Long working hours and risk of hypertensive intracerebral haemorrhage among Japanese workers claiming compensation for overwork-related intracerebral haemorrhage: an unmatched case-control study. *BMJ open*. 2023; 13(9): e074465.
- 4) Yuki Takahashi, Toru Yoshikawa, Kenji Yamamoto, Masaya Takahashi. Characteristics of mental disorders among information technology workers in 238 compensated cases in Japan. *Industrial health*. 2023; 2022-0197.
- 5) Yuko Ochiai, Masaya Takahashi, Tomoaki Matsuo, Takeshi Sasaki, Yuki Sato, Kenji Fukasawa, Tsuyoshi Araki, Yasumasa Otsuka. Characteristics of long working hours and subsequent psychological and physical responses: JNOSH cohort study. *Occupational and Environmental Medicine*. 2023; 80(6): 304-311.
- 6) Keita Kiuchi, Takeshi Sasaki, Masaya Takahashi, Tomohide Kubo, Toru Yoshikawa, Tomoaki Matsuo, Xinxin Liu. Mediating and moderating effects of psychological detachment on the association between stressors and depression: A longitudinal study of Japanese workers. *Journal of*

- occupational and environmental medicine. 2023; 65(3): e161–e169.
- 7) Yuki Nishimura, Hiroki Ikeda, Shun Matsumoto, Shuhei Izawa, Sayaka Kawakami, Masako Tamaki, Sanae Masuda, Tomohide Kubo. Impaired self-monitoring ability on reaction times of psychomotor vigilance task of nurses after a night shift. *Chronobiology International*. 2023; 40(5): 603–611.
 - 8) Tomoaki Matsuo, Rina So, Fumiko Murai. Estimation methods to detect changes in cardiorespiratory fitness due to exercise training and subsequent detraining. *European Journal of Applied Physiology*. 2023; 123(4): 877–889.
 - 9) Rina So, Fumiko Murai, Manabu Fujii, Sanae Watanabe, Tomoaki Matsuo. Association of sitting time and cardiorespiratory fitness with cardiovascular disease risk and healthcare costs among office workers. *Industrial Health*. 2023; 61(5): 368–378.
 - 10) Yuki Nishimura, Takashi Yamauchi, Takeshi Sasaki, Toru Yoshikawa, Masaya Takahashi. Overtime working patterns and adverse events in work-related suicide cases: hierarchical cluster analysis of national compensation data in Japan (fiscal year 2015-2016). *International Archives of Occupational and Environmental Health*. 2022; 95(4): 887–895.
 - 11) Yuki Sato, Masaya Takahashi, Yuko Ochiai, Tomoaki Matsuo, Takeshi Sasaki, Kenji Fukasawa, Tsuyoshi Araki, Masao Tsuchiya, Cohort Study GOJ. Study profile: protocol outline and study perspectives of the cohort by the National Institute of Occupational Safety and Health, Japan (JNIOH cohort). *Industrial Health*. 2022 Jul 31; 60(4): 395–404.
 - 12) Yuko Ochiai, Masaya Takahashi, Tomoaki Matsuo, Takeshi Sasaki, Yuki Sato, Kenji Fukasawa, Tsuyoshi Araki, Yasumasa Otsuka. Health problems associated with single, multiple, and the frequency of months of objectively measured long working hours: a cohort study by the National Institute of Occupational Safety and Health, Japan. *International Archives of Occupational and Environmental Health*. 2022 Apr; 95(3): 685–699.
 - 13) Tomohide Kubo, Shun Matsumoto, Shuhei Izawa, Hiroki Ikeda, Yuki Nishimura, Sayaka Kawakami, Masako Tamaki, Sanae Masuda. Shift-Work Schedule Intervention for Extending Restart Breaks after Consecutive Night Shifts: A Non-randomized Controlled Cross-Over Study. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2022; 19(22): 15042.
 - 14) Hiroki Ikeda, Tomohide Kubo, Takeshi Sasaki, Yuki Nishimura, Xinxin Liu, Tomoaki Matsuo, Rina So, Shun Matsumoto, Masaya Takahashi. Prospective changes in sleep problems in response to daily rest period among Japanese daytime workers: a longitudinal web survey. *Journal of Sleep Research*. 2022; 31(1): e13449.
 - 15) Tomoaki Matsuo, Rina So, Fumiko Murai. Improved VO₂max Estimation by Combining a Multiple Regression Model and Linear Extrapolation Method. *Journal of Cardiovascular Development and Disease*. 2022; 10(1): 9.
 - 16) Rina So, Fumiko Murai, Tomoaki Matsuo. Association of cardiorespiratory fitness with the risk factors of cardiovascular disease: Evaluation using the Japan step test from the National Institute of Occupational Safety and Health. *Journal of Occupational Health*. 2022; 64(1): e12353.
 - 17) Hiroki Ikeda, Xinxin Liu, Fuyuki Oyama, Takahide Akama, Shuhei Izawa, Masaya Takahashi. Effects of short sleep duration on hemodynamic and psychological responses under long

- working hours in healthy middle-aged men: an experimental study. *Industrial Health*. 2022; 60(6): 535-547.
- 18) Tomohide Kubo, Shun Matsumoto, Takeshi Sasaki, Hiroki Ikeda, Shuhei Izawa, Masaya Takahashi, Shigeki Koda, Tsukasa Sasaki, Kazuhiro Sakai. Shorter sleep duration is associated with potential risks for overwork-related death among Japanese truck drivers: use of the Karoshi prodromes from worker's compensation cases. *International Archives of Occupational and Environmental Health*. 2021; 94: 991-1001.
- 19) 高見具広. 自律的な働き方と労働時間管理の課題－健康確保の観点から. *日本労働研究雑誌* No.752. 2023.
- 20) 劉 欣欣, 池田大樹, 小山冬樹, 西村悠貴, 高橋正也. 模擬長時間労働時の主観的負担と課題パフォーマンス. *労働安全衛生研究*. 2023; 16(2): 159-164.
- 21) 堤 明純, 吉川 徹. 小規模事業場でメンタルヘルス対策を進める上での課題と方策. *産業ストレス研究*. 2023; 30(4): 395-401.
- 22) 川上澄香, 井澤修平, 久保智英, 吉川徹. 介護職におけるトラウマティックな出来事に関する研究. *労働安全衛生研究*. 2022; 15(2): 143-151.
- 23) 茂木伸之, 松元 俊, 久保智英, 井澤修平, 池田大樹, 高橋正也, 甲田茂樹. 道路貨物運送業の運転業務従事者及び非運転業務従事者における労災認定された精神障害等事案の特徴. *産業衛生学雑誌*. 2022; 64(5): 244-252.
- 24) 松元俊, 久保智英, 井澤修平, 池田大樹, 高橋正也, 甲田茂樹. トラックドライバーの健康障害と過労状態に関連する労働生活要因の検討. *産業衛生学雑誌*. 2022; 64(1): 1-11.
- 25) 西村悠貴, 佐々木毅, 吉川徹, 高橋正也. 職場における出来事への長期的なばく露と高ストレス判定の関連. *労働安全衛生研究*. 2022; 15(2): 95-104.
- 26) 鈴木一弥, 吉川徹, 高橋正也. 長時間労働による健康障害の自主的な予防活動を支援するツールに関する調査. *労働安全衛生研究*. 2022; 15(1): 23-35.
- 27) 永峰大輝, 仙波京子, 石井賢治, 石川智, 竹内由利子, 北島洋樹, 野原理子, 酒井一博. 小規模事業所におけるトラックドライバーの労働環境・健康管理の実態調査. *労働科学*. 2022; 98(2): 54-64.
- 28) 劉 欣欣, 池田大樹, 小山冬樹, 高橋正也. 高年齢層の男性における模擬長時間労働時の心血管系反応. *労働安全衛生研究*. 2021; 14(2): 149-153.

1-2.書籍・著書

- 1) 高見具広. 脳・心臓疾患の労災認定事案における就業スケジュールの分析 労働政策研究・研修機構編『過重負荷による労災認定事案の研究 その 5』JILPT 資料シリーズ No.273. 第 2 章. 2024.
- 2) 高見具広. 過労死等の労災認定事案における労働時間の認定にかかわる事案の検討 労働政策研究・研修機構編『過重負荷による労災認定事案の研究 その 4』JILPT 資料シリーズ、第 2 章. 2023.
- 3) 高橋正也, 吉川徹. 過労死リスクの高い教師の働き方をどう変えるか. 妹尾昌俊, 工藤祥子著者. 先生を、死なせない。教師の過労死を繰り返さないために、今、できること. 東京, 教育開発研究所. 2022; 178-193.
- 4) 高橋正也. 交代制勤務・夜勤. 村木里志, 長谷川博, 小川景子編者. 人間の許容・適応限界事典. 東京, 朝倉書店. 2022; 601-605.
- 5) 高橋正也. 運転. 村木里志, 長谷川博, 小川景子編者. 人間の許容・適応限界事典. 東京, 朝倉書店. 2022; 625-629.
- 6) 高橋正也. 睡眠と社会, 労働. 日本睡眠教育機構監修, 宮崎総一郎・林光緒・田中秀樹編集. 健康・医療・福祉のための睡眠検定ハンドブック up to date. 東京, 全日本病院出版会. 2022; 169-176.
- 7) 吉川徹. 業種別・作業別の産業保健; 医療機関. 産業保健マニュアル(改訂

- 8版). 東京, 南山堂. 2021; 424-427.
- 8) 高見具広. 精神障害の労災認定事案における「極度の長時間労働」事案の検討 労働政策研究・研修機構編『過重負荷による労災認定事案の研究 その3』JILPT 資料シリーズ No.246、第2章. 2021.
 - 9) 高橋正也. 夜勤交代勤務. 適正使用のための臨床時間治療学—生体リズムと薬物治療効果—. 東京, 診断と治療社. 2021; 60-67.
- 1-3. 総説・解説等 査読なし
- 1) 高橋正也, 北島洋樹. シンポジウム 10 (大会事務局企画) 過労死等事案の医学研究. 産業精神保健. 2024; 32(1): 143-146.
 - 2) 松元 俊. トラックドライバーの不規則勤務の健康影響と対策の方向性. 日本産業衛生学会 関東地方会ニュース. 2024; 49: 2-3.
 - 3) 松元 俊. トラックドライバーの夜間早朝出発を伴う不規則勤務スケジュールが血圧・動脈硬化に及ぼす影響の検討. 日本労働研究雑誌. 2024; 764(2・3): 77-92.
 - 4) 高橋正也. 働き方と健康のエビデンス「過労死等防止調査研究センターのこれからの役割」. へるすあっぷ 21 3 月号. 2024; 473: 38.
 - 5) 吉川 徹. メンタルヘルスと職場環境改善—産業精神保健における Agility と Sustainability に注目して—. 産業精神保健. 2024; 32(1): 1-6.
 - 6) 高橋正也. 日本労働科学学会・研究プロジェクト最終報告(要約)「過労死等を防ぐための事業場並びに国家の取組: 過労死等事業場のその後(2021年～2023年)」. 年報 労働科学学会, 第3号. 2023; 67-71.
 - 7) 佐々木毅, 吉川 徹. 過労死等としての脳・心臓疾患の経年変化～労災認定事案の分析から～. へるすあっぷ 21 5 月号. 2023; 463: 38.
 - 8) 西村悠貴. 過労自殺事案における長時間労働の実態. へるすあっぷ 21 6 月号. 2023; 464: 38.
 - 9) 吉川 徹. 働き方改革関連法を含む最近の労働安全衛生に関連した法改正の動向—特集 嘱託産業医として心得ておくべき最近のトピックス. 月刊地域医学. 2023; 37(3): 301-307.
 - 10) 高橋正也. 健康にモノを運び続けるためにできること. 陸運と安全衛生. 2023; 656: 6-9.
 - 11) 高橋正也. 労働生活における良好な睡眠と健康～ウェルビーイングを目指して～. 林材安全. 2023; 891: 10-14.
 - 12) 高橋正也. 新しい働き方と睡眠. 医学講座「ワーク・スリープ・バランス」最終回. 季刊ろうさい. 2023; 56: 28-33.
 - 13) 久保智英. 交代勤務看護師における勤務間インターバル延長の効果. へるすあっぷ 21 9 月号. 2023; 467: 38.
 - 14) 久保智英. つながらない権利が尊重される環境の実現に向けて. 広報誌「GENKI」. 2023; 163: 1-6.
 - 15) 久保智英. プラスワン“つながらない権利”の重要性. Leadership Development Note (LD ノート). 2023; 1388: 34-35.
 - 16) 松元 俊. トラックドライバーの血圧上昇と過労の要因. へるすあっぷ 21 10 月号. 2023; 468: 38.
 - 17) 松元 俊. インターバル協定から始まるシフトスケジュール見直しとその方法. 医療労働. 2023; 673: 2-5.
 - 18) 池田大樹, 久保智英. 勤務間インターバルと健康とのかかわり. へるすあっぷ 21 8 月号. 2023; 466: 38.
 - 19) 劉 欣欣. 模擬長時間労働中の血圧: 加齢の影響. へるすあっぷ 21 12 月号. 2023; 470: 38.
 - 20) 池田大樹. 模擬長時間労働中の血圧: 高血圧の影響. へるすあっぷ 21 11 月号. 2023; 469: 38.
 - 21) 蘇 リナ, 村井史子, 松尾知明. 身体活動評価に向けたウェアラブル機器の活用と今後の展望. 産業ストレス研究. 2023; 30(2): 191-200.
 - 22) 高橋正也. 働き方と健康のエビデンス「働き方と健康のエビデンスを創る 過労死等防止調査研究センター」. へるすあっぷ 21 4 月号. 2023; 462: 38.
 - 23) 吉川 徹. 書評「健康に働く職場の共通課題—グローバルな動きに合わせた

- 方向づけをさぐる-」(小木和孝著「産業保健の国際共通課題-すべての労働者にサービスをとどけるために-(産業医学振興財団)」. 図書新聞. 2023; 3620: 12.
- 24) 中西麻由子. 産業医の声 プロダクトアウトとマーケットイン 産業保健サービス提供体制があるのに、なぜ小規模事業場の産業保健活動は進まないのか?. 産業医学ジャーナル. 2023; 46(4): 71-73.
- 25) 高橋正也. 特集記事 過労死等(脳・心臓疾患)に関する労災認定基準の見直しとその背景. 日本産業衛生学会関東地方会ニュース. 2022; 46: 2-3.
- 26) 吉川徹. 「過労死等の防止のための対策に関する大綱」の変更(令和3年7月30日閣議決定). 産業ストレス研究. 2022; 29(2): 261-262.
- 27) 吉川徹. 働き方改革関連法を含む最近の労働安全衛生に関連した法改正の動向. 月間地域医学. 地域医療振興協会. 2022; 37(3): 301-307.
- 28) 吉川徹, 城守国斗, 木戸道子, 中嶋義文, 松本吉郎. 特集「医師の働き方改革と産業保健」日本医師会における医師の働き方改革に係る取組. 産業医学ジャーナル. 2022; January46-1: 13-18.
- 29) 吉川徹. 特集記事 医師の働き方改革, 日本産業衛生学会関東地方会ニュース. 2022; 47: 2.
- 30) 吉川 徹. 医療従事者が安心して健康に働くために(第10回)職業性感染症とその対策. 保健の科学. 2022; 64(10): 695-700.
- 31) 吉川徹. 医師へのドクターストップは機能するか「働き方ストップ」. Medical Tribute. 2022; 55(15): 6.
- 32) 吉川徹. ストレスチェック制度のこれまでのあゆみ. 公益社団法人日本精神保健福祉連盟 広報誌. 2022; 48: 1-7.
- 33) 吉川徹. メンタルヘルス対策に活かす職場環境改善. 安全と健康. 2022; 23(3): 240-244.
- 34) 吉川徹. WHO 協力センターとしての最近の取り組み- COVID-19 対応を含めて -. 産業医学ジャーナル. 2022; 45(2): 66-69.
- 35) 茂木伸之, 吉川徹. 日本の教職員の長時間労働と過労死等に影響を与える睡眠およびメンタルヘルス研究に関するレビュー. 産業精神保健. 2022; 30(2): 205-210.
- 36) 高橋正也. 睡眠とは. 医学講座「ワーク・スリープ・バランス」第1回. 季刊ろうさい. 2022; 53: 26-31.
- 37) 高橋正也. 働く人々の睡眠と健康・安全. 医学講座「ワーク・スリープ・バランス」第2回. 季刊ろうさい. 2022; 54: 25-30.
- 38) 高橋正也. 夜勤交代勤務と睡眠. 医学講座「ワーク・スリープ・バランス」第3回. 季刊ろうさい. 2022; 55: 26-30.
- 39) 久保智英. 夜勤・交代制勤務に従事する看護師が疲れる理由とその対策. 看護 2022 年 11 月臨時増刊号. 2022; 74(14): 14-20.
- 40) 久保智英. 労働時間管理におけるテレワークの光と影. 安全と健康. 2022; 23(5): 23-27.
- 41) 久保智英. 過労死を防ぐための働き方- 休むこと, 休ませることの重要性 -. 保健の科学. 2022; 64: 386-391.
- 42) 久保智英. 仕事の反対語から考える日本人の労働観とブルシット・ジョブ. へるすあつぷ 21 8 月号. 2022; 454: 22.
- 43) 松元俊. トラックドライバーの不規則勤務が健康に及ぼす影響とその改善策の検討. 安全衛生コンサルタント. 2022; 145(43): 26-30.
- 44) 松元俊. 夜勤実態調査にちよい足しして勤務シフト改善に活かす. 医療労働. 2022; 662: 2-5.
- 45) 吉川徹. 運輸業(物流業界、旅客運送)における新しい働き方と産業精神保健への期待. 産業精神保健. 2022; 30(特別号): 96-99.
- 46) 高橋正也. 第27回日本産業精神保健学会 特別講演 I : 働き方改革法案と産業精神保健- 睡眠医学の見地から. 産業精神保健. 2021; 29(3): 194-199.
- 47) 高橋正也. 残業減らし 余暇生活の充実を. ひろばユニオン. 2021; 716: 21-23.
- 48) 高橋正也. 最新の研究データから見る働き方と健康の関連. へるすあつぷ 21.

- 2021; 445: 12-14.
- 49) 高橋正也. 過労死防止法制定7年, 現状とこれから. 過労死防止学会誌. 2021; 2: 52-61.
- 50) 吉川徹. 特集～過重労働(長時間労働)とメンタルヘルス 特集にあたって—産業保健スタッフのための過重労働防止策に役立つ最新情報—. 産業精神保健. 2021; 29(2): 90-93.
- 51) 池田大樹. 日勤労働者における睡眠負債・社会的時差ぼけと勤務間インターバルの関連性. 行動医学研究. 2021; 26(2): 53-57.

2. 学会発表

2-1. 学会発表(国際学会)

- 1) Toru Yoshikawa. Sickness Allowance System and RTW programs in Japan. *Annals of Occupational and Environmental Medicine*. 2023; 35(Supplement): S-08-03.
- 2) Tomohide Kubo, Shun Matsumoto, Yuki Nishimura, Hiroki Ikeda, Shuhei Izawa, Fumihiko Sato. A visualization of daily sleep behavior: Using wearable digital health technology to improve sleep health among shift-working caregivers. 15th International Work, Stress, and Health Conference, Online Program, Saturday Poster Session. 2023.
- 3) Keita Kiuchi, Ryohei Kashima, Toru Yoshikawa & Masaya Takahashi. The Effect of Stressful Workplace Events on Suicide: Estimating Causal Effects through the Analysis of Industrial Accident Compensation Insurance Data in Japan. 15th International Work, Stress, and Health Conference, conference program. 2023.
- 4) Tomoaki Matsuo, Rina So, Fumiko Murai. Estimation methods for detecting changes in cardiorespiratory fitness due to exercise training and subsequent detraining. ACSM Annual Meeting, World Congress on Exercise is Medicine. 2023; Abstract apps.
- 5) Rina So, Fumiko Murai, Manabu Fujii, Sanae Watanabe, Tomoaki Matsuo. Association of sitting time and cardiorespiratory fitness with cardiovascular disease risk and healthcare costs. ACSM Annual Meeting, World Congress on Exercise is Medicine. 2023; Abstract apps.
- 6) Fumiko Murai, Rina So, Manabu Fujii, Sanae Watanabe, Tomoaki Matsuo. Pandemic-mediated changes in sitting time: Effects on obesity and cardiorespiratory fitness. ACSM Annual Meeting, World Congress on Exercise is Medicine. 2023; Abstract apps.
- 7) Kazutaka Kogi, Miwako Nagasu, Toru Yoshikawa, Etsuko Yoshikawa, Toyoki Nakao. Roles of locally adjusted action checklists in participatory work improvement programs for varied jobs. *Annals of Occupational and Environmental Medicine*. 2023; 35(Supplement):O-03-01.
- 8) Keita Kiuchi, Toru Yoshikawa, Masaya Takahashi. Latent Class Analysis of Stressors Based on Workplace Accident Compensation Cases Regarding Mental Disorders in Japan. 33rd International Congress on Occupational Health 2022, Safety and Health at Work. 2022; 13: S297.
- 9) Yuki Nishimura, Takeshi Sasaki, Toru Yoshikawa, Tomohide Kubo, Tomoaki Matsuo, Xinxin Liu, Masaya Takahashi. Web-based Follow-up Study on Relation Between Work-related Events and Depression in Japanese Workers. 33rd International Congress on Occupational Health, Safety and Health at Work. 2022; 13: S297-S298.
- 10) Takashi Yamauchi, Kunihiro Takahashi, Machi Suka, Takeshi Sasaki, Masaya Takahashi, Toru Yoshikawa, Hiroto Okoshi, Shigeo Umezaki, Hiroyuki Yanagisawa. Longitudinal association between near-misses/minor injuries and moderate/severe injuries by presence/absence of depressive

symptoms in a nationally representative sample of workers in Japan. 33rd International Congress on Occupational Health 2022, Safety and Health at Work. 2022; 13: S87-S88.

- 11) Yuko Ochiai, Masaya Takahashi, Tomoaki Matsuo, Takeshi Sasaki, Yuki Sato, Kenji Fukasawa, Tsuyoshi Araki, Yasumasa Otsuka. The prospective relationship between accumulation of overtime working hours and workers' health. International Journal of Behavioral Medicine. 2021; 28(Suppl 1): 5202-3.

2-2.学会発表(国内学会)

- 1) 高見具広. 生活時間と健康の確保に関わる働き方. 第 131 回労働政策フォーラム(2024 年 3 月 6 日).
- 2) 久保智英. 「過労徴候しらべ」の開発経緯と改定に向けた過労死遺族へのヒアリング調査の結果. シンポジウム:過労死等事案に基づく「過労徴候しらべ」の開発経緯と今後の展望. 日本産業衛生学会 産業疲労研究会 第 98 回定例研究会. 抄録集なし. 2024.
- 3) 久保智英. 「オンとオフのメリハリが曖昧な現代社会の疲労問題:勤務間インターバルとつながらない権利」. 第 35 回労働 PEN “究” 会. 抄録なし. 2024.
- 4) 松元 俊. 看護労働における勤務間インターバルと睡眠. 日本生理人類学会・日本時間生物学学会ジョイントセミナー「シフトワークへの適応:生体リズム・睡眠と健康」. 抄録なし. 2024.
- 5) 木内敬太. COSMIN ガイドラインに準じた「過労徴候しらべ」の改訂—内容的妥当性、構造的妥当性、内的一貫性の検証—. 日本産業衛生学会 産業疲労研究会 第 98 回定例研究会. シンポジウム「過労死事案に基づく「過労徴候しらべ」の開発経緯と今後の展望」. 2024.
- 6) 劉 欣欣. 高リスク労働者への配慮は必要?!—実験から見てきた勤務中の心血管系負担—. 令和 5 年度過労死等防止調査研究センター研究成果発表シンポジウム. 2024 年 3 月.
- 7) 高橋正也. プロジェクト報告「過労死等を防ぐための事業場並びに国家の取組」. 日本労働科学学会第 4 回年次大会. 抄録集なし. 2023.
- 8) 高橋正也. 第一部 総会 IV. 昨年度における過労死等の労災補償状況. 第 8 回労働時間日本学会研究集会. 抄録集. 2023; 6-8.
- 9) 吉川 徹, 佐々木毅, 高橋正也. 自営業者・中小事業主・一人親方等における過労死・過労自殺等の特徴. 第 96 回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2023; 65(Suppl.): 479.
- 10) 吉川 徹. シンポジウム 8 ポストコロナ時代の職場のメンタルヘルス対策, 精神障害の新労災認定基準(2023)からみた職場のメンタルヘルス対策の力点. 第 33 回日本産業衛生学会全国協議会. 講演集. 2023; 127.
- 11) 吉川 徹. 東日本大震災に関連した脳・心臓疾患の労災認定事案の分析結果からみえる災害時の過重労働対策の力点. 産業保健法学会会誌. 2023; 2(増刊号): 89.
- 12) 吉川 徹. 労災保険特別加入者(自営業者・中小事業主・一人親方)の過労死等事案の特徴からみた過労死等防止視点. 産業保健法学会会誌. 2023; 2(増刊号): 54.
- 13) 佐々木毅. 精神障害の過労死等事案における業種別経年変化. 第 30 回日本産業精神保健学会. 産業精神保健. 2023; 31(Suppl.): 118.
- 14) 西村悠貴. 就労者の過労自殺の特徴(全体像). 第 39 回日本ストレス学会・学術総会. プログラム・抄録集. 2023; 245.
- 15) 西村悠貴. 過労自殺事案における長時間労働や医療機関受診の実態調査. 第 30 回日本産業精神保健学会. 産業精神保健. 2023; 31(Suppl.): 119.
- 16) 茂木伸之, 高橋正也. 道路貨物運送業における過労死等の精神障害の労災認定事案の検討. 産業保健人間工学誌. 2023; 25(特別号): 50-51.
- 17) 守田祐作, 吉川 徹, 高橋正也. 脳・心臓疾患の過労死等事案におけるくも膜下出血の出血源. 第 82 回日本公衆衛

- 生学会. 講演集. 2023; 317.
- 18) 石井賢治, 仙波京子, 酒井一博. 運輸事業者とドライバーによるハイリスクドライバーの把握とその特徴. 日本労働科学学会第4回年次大会, 2023.
 - 19) 高見具広. 長時間労働等の過重労働と精神障害—事例研究から—. 第30回日本産業精神保健学会(2023年8月27日).
 - 20) 永峰大輝, 仙波京子, 石井賢治, 石川智, 竹内由利子, 北島洋樹, 野原理子, 酒井一博. 小規模事業所におけるトラックドライバーの健康管理の検討—事業用と自家用の比較—. 日本労働科学学会第4回年次大会. 2023. (倉敷)
 - 21) 落合由子, 高橋正也, 松尾知明, 佐々木毅, 佐藤ゆき, 深澤健二, 荒木剛, 大塚泰正. 6か月の平均労働時間・長時間労働の蓄積と心理的・身体的ストレス反応との関連. 第96回日本産業衛生学会, 産業衛生学雑誌. 2023; 65 (Suppl.): 362.
 - 22) 高橋正也. 産業保健, シンポジウム2「医療現場に必要な睡眠情報の適切な理解と活用」. 第14回日本臨床睡眠医学会学術集会. プログラム・抄録集. 2023; 45.
 - 23) 久保智英. 働く人々におけるオフの量と質の確保の重要性, ワークショップ: 「ICTの発展と労働時間法政策の課題—“つながらない権利”を手掛かりとして」. 日本労働法学会第140回大会. 抄録集なし. 2023.
 - 24) 久保智英. 働く人々における巧みな休み方: オフの量と質の確保の重要性. SOMPO ひまわり生命保険労働組合セミナー. 抄録集無し. 2023.
 - 25) 久保智英. 休み方から考える新たな疲労管理の視点: 交代勤務における睡眠マネジメントの重要性. 第96回日本産業衛生学会シンポジウム「働きやすさと健康を両立できる勤務体制の設計」. 産業衛生学雑誌. 2023; 65(臨時増刊号): 149.
 - 26) 久保智英. 職場の疲労カウンセリング: 職場の特性に応じたオーダーメイドの疲労対策の必要性. 第96回日本産業衛生学会シンポジウム「疲労リスク管理システムの他業種への水平展開に向けて」. 産業衛生学雑誌. 2023; 65(臨時増刊号): 160.
 - 27) 久保智英. 働く人々のオフの量と質の確保: 「つながらない権利」の重要性. 損保労連セミナー「『つながらない権利』が尊重される環境の実現に向けて」. 抄録集無し. 2023.
 - 28) 松元俊. 不規則勤務トラックドライバーの働き方・休み方と血圧・血管指標との関連: 1か月間のパネルデータ解析より. 日本睡眠学会第45回定期学術集会シンポジウム25「動脈硬化と睡眠・健康」. プログラム・抄録集. 2023; 191.
 - 29) 松元俊. 不規則勤務における安全健康管理の要点〜トラックドライバーの観察調査結果より〜. 第82回全国産業安全衛生大会 特別報告. 労働衛生管理活動分科会研究発表集(PDFファイル). 2023; 26-28.
 - 30) 松元俊. 不規則勤務トラックドライバーの負担軽減に向けた疲労リスク管理の必要性. 第96回日本産業衛生学会シンポジウム「疲労リスク管理システムの他業種への水平展開に向けて」. 産業衛生学雑誌. 2023; 65(Suppl.): 159.
 - 31) 池田大樹. 在宅勤務と健康: 勤務時間外の業務連絡の問題. 第96回日本産業衛生学会シンポジウム「働きやすさと健康を両立できる勤務体制の設計」. 産業衛生学雑誌. 2023; 65(臨時増刊号): 147.
 - 32) 池田大樹, 久保智英, 西村悠貴, 井澤修平. 勤務時間外における仕事の連絡が労働者の健康に及ぼす影響: 9日間の観察調査による検討. 第30回日本行動医学会学術総会. 2023.
 - 33) 佐藤ゆき, 高橋正也, 落合由子, 松尾知明, 佐々木毅, 深澤健二. JNIOOSH コホート研究の進捗と中間分析結果—労働時間と健康状態の年代別・性別の特徴—. 第33回日本疫学会学術総会. 2023.
 - 34) 劉欣欣, 池田大樹, 小山冬樹, 西村悠貴, 高橋正也. 模擬長時間労働時の作業パフォーマンスに関する研究. 第96回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2023; 65: 515.

- 35) 松尾知明, 蘇 リナ, 村井史子. 労働者の健康リスク軽減を目指す体力科学研究. 日本産業衛生学会関東地方会第1回健康的な職場づくり研究会研修会. オンライン. 2023; 抄録集なし.
- 36) 松尾知明. 労働人口減少社会における体力科学研究と産業保健, 第33回日本産業衛生学会全国協議会四部会合同シンポジウム「労働現場における急速な少子高齢化への対応」. 講演集. 136.
- 37) 松尾知明, 蘇 リナ, 西村悠貴, 村井史子 他. 労働者の健康リスク軽減を目指す体力科学研究. 第71回日本職業・災害医学会学術大会. 日本職業・災害医学会誌. 2023; 71(Suppl): 102.
- 38) 蘇 リナ, 村井史子, 薛 載勲 他. 日本人労働者の勤務中身体活動の現状と課題. 第34回日本臨床スポーツ医学会学術集会合同シンポジウム. 予稿集. 2023; 189.
- 39) 蘇 リナ, 村井史子, 薛 載勲 他. 職種別・男女別にみた日本人労働者の座位時間と健康リスク. 第25回日本運動疫学会学術総会. 抄録集. 2023; 46.
- 40) 村井史子, 蘇 リナ, 藤居 学, 渡辺早苗, 松尾知明. コロナ禍における生活活動の変化と肥満や心肺機能との関連. 第96回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2023; 65(Suppl): 336.
- 41) 村井史子, 蘇 リナ, 松尾知明. 大規模疫学調査に向けたデータ収集、身体活動分析ツールの開発～web活動日誌、HANAE2の紹介～. 第25回日本運動疫学会学術総会. 抄録集. 2023; 47.
- 42) 薛 載勲, 蘇 リナ, 村井史子 他. 日勤労働者の勤務日における睡眠・活動リズムと心肺持久力との関係. 第25回日本運動疫学会学術総会. 抄録集. 2023; 45.
- 43) 薛 載勲, 蘇 リナ, 村井史子, 松尾知明. 労働者の運動習慣が社会的時差ぼけ, 抑うつ, プレゼンティズムに及ぼす影響: 3者の関係性に基づいた検討. 日本睡眠学会第45回定期学術集会. 抄録集. 2023; 300.
- 44) 高橋正也. 過労死等防止対策実装班の取り組み. 自由集会「運輸業・建設業に関心のある産業保健関係者のフリートーク:2024年問題の情報共有」. 第96回日本産業衛生学会. 産衛誌. 2023; 65(Suppl.): 306.
- 45) 高橋正也. 過労死等研究における対策実装研究班の役割, 自由集会2(過労死等防止対策実装研究班)「運輸業・建設業に関心のある産業保健関係者のフリートーク:2024年問題の共有(その2)」. 第33回日本産業衛生学会全国協議会. 抄録集. 2023; 189.
- 46) 吉川 徹. 産業医部会フォーラム「運輸業・建設業とのステークホルダー会議を通じて取り組む過労死等防止研究」. 第96回日本産業衛生学会講演集. 産業衛生学雑誌(臨時増刊号). 2023; 65(Suppl.): 261.
- 47) 吉川 徹. 日本における過労死等の実態と包括的防止対策の視点. 第20回日本うつ病学会総会/第39回日本ストレス学会・学術総会【合同開催】, プログラム・抄録集. 2023; 244.
- 48) 吉川 徹. メンタルヘルスと職場環境改善. 産業精神保健(増刊号). 2023; 31(Suppl.): 40-41.
- 49) 吉川 徹, 中込めぐみ. 自由集会2(過労死等防止対策実装研究班)「運輸業・建設業に関心のある産業保健関係者のフリートーク:2024年問題の共有(その2)」. 第33回日本産業衛生学会全国協議会. 講演集. 2023; 37.
- 50) 鈴木一弥. 開発されたセルフチェックシートの紹介. 第96回日本産業衛生学会:自由集会「運輸業・建設業に関心のある産業保健関係者のフリートーク:2024年問題の情報共有」. 産業衛生学会誌. 第65巻臨時増刊号(第96回日本産業衛生学会プログラム). 2023; 306.
- 51) 森口次郎, 中嶋知恵, 内田陽之, 水本正志, 佐藤和真, 吉川 徹, 吉川悦子, 佐野友美, 小島健一, 堤 明純. 小規模事業場の職場環境改善のためのリーフレットの作成と評価および今後の展開. 産業精神保健. 2023; 31(増刊号): 141.
- 52) 内田陽之, 森口次郎, 中嶋知恵, 佐藤和真, 水本正志, 吉川 徹, 吉川悦子, 佐野友美, 小島健一, 堤 明純. 小規模

- 事業場のストレスチェック集団分析活用推進のためのリーフレットの作成と評価. 第96回日本産業衛生学会講演集. 産衛誌(臨時増刊号). 2023; 65 (Suppl.): 346.
- 53) 吉川悦子, 吉川 徹, 佐野友美, 森口次郎, 内田陽之, 水本正志, 中嶋知恵, 堤 明純. 小規模事業場における職場環境改善 IT ツールの開発・ユーザビリティ調査. 第 96 回日本産業衛生学会講演集. 産衛誌(臨時増刊号). 2023; 65 (Suppl.): 365.
- 54) 中嶋知恵, 森口次郎, 内田陽之, 佐藤和真, 水本正志, 吉川 徹, 吉川悦子, 佐野友美, 小島健一, 堤 明純. 小規模事業場の職場環境改善のためのリーフレットの作成と評価. 第 96 回日本産業衛生学会講演集. 産衛誌(臨時増刊号). 2023; 65 (Suppl.): 478.
- 55) 中西麻由子, 吉川 徹, 中辻めぐみ, 高橋正也, 鈴木一弥, 仙波京子, 野原理子, 深澤健二, 酒井一博. 過労死等防止視点からの中小事業場向け自律的管理支援のためのチェックシートの開発. 第 96 回日本産業衛生学会講演集. 産業衛生学雑誌(臨時増刊号). 2023; 65 (Suppl.): 350.
- 56) 岩浅 巧, 石井賢治, 仙波京子, 鈴木一弥, 竹内由利子, 佐々木司, 野原理子, 酒井一博. 建設作業従事者の睡眠習慣改善に向けた予備的研究. 日本人間工学会第64回大会. 2023年9月.
- 57) 高橋正也. 過労死等労災の最新状況. I. シンポジウム. 1「働き方改革のこれまで」. 第 7 回労働時間日本学会研究集会. 抄録集. 2022; 7.
- 58) 吉川徹, 守田祐作, 佐々木毅, 高橋正也. 日本における脳・心臓疾患の労災補償状況と決定時疾患(2010-2018年度). 日本循環器病予防学会誌. 2022; 57(2): 141.
- 59) 吉川徹. シンポジウム 9 ドクターへの「ドクターストップ」は機能するかー長時間医師面接指導の実際:就業区分と指導区分の判定と課題-. 第 95 回日本産業衛生学会. 抄録. 2022; 181.
- 60) 吉川徹, 佐々木毅, 高橋正也. 外食産業における脳・心臓疾患及び精神障害・自殺に関する過労死等労災認定事案の特徴. 第 95 回日本産業衛生学会. 抄録. 2022; 363.
- 61) 吉川徹, 守田祐作, 佐々木毅, 高橋正也. 日本における脳・心臓疾患の労災補償状況と決定時疾患(2010~2018年). 第 58 回日本循環器病予防学会学術集会抄録集. 日本循環器病予防学会. 2022; 57(2): 141.
- 62) 吉川徹. シンポジウム 2「医療・福祉職の暮らしと仕事」:医療・介護・福祉における産業保健チームの役割-医師の働き方改革の動向を含め-. 第 87 回日本健康学会総会. 抄録集. 2022; 20-21.
- 63) 茂木伸之, 高橋正也. 過労死等の労災認定事案によるトラックドライバーの運行パターンの検討. 第 27 回産業保健人間工学会. 産業保健人間工学研究. 2022; 24(増補): 25-26.
- 64) 茂木伸之, 松元俊, 久保智英, 井澤修平, 池田大樹, 高橋正也, 甲田茂樹. トラックドライバーの労災認定事案における精神障害等の発症についての検討. 第 95 回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2022; 64(増刊号): 391.
- 65) 木内敬太, 吉川徹, 高橋正也. 精神障害に関する労災認定事案の分類. 第 95 回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2022; 64(臨時増刊号): 460.
- 66) 西村悠貴, 山内貴史, 佐々木毅, 吉川徹, 高橋正也. 労災自殺事案の病院受診率と関連する要因についての探索的研究. 第 95 回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2022; 64: 59.
- 67) 高田琢弘, 吉川徹, 佐々木毅, 山内貴史, 高橋正也. 地方公務員の過労死等に係る公務災害認定事案の職種別の動向:「その他の職員」の内訳. 第 95 回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2022; 64(Suppl.): 457.
- 68) 守田祐作, 吉川徹, 高橋正也. 脳・心臓疾患の労災補償申請事案における脳内出血の部位と過重労働の関連. 第 95 回日本産業衛生学会. 抄録. 2022; 313.
- 69) 高見具広. 自律的な働き方と労働時間管理の課題ー健康確保の観点から

- 労働政策研究会議(日本労使関係研究協会、2022年11月20日)。
- 70) 中西麻由子, 深井恭佑, 上田伸治, 長井聡里. 産業保健の価値を高め社会的役割を担うための開業産業保健職チーム化構想. 産業衛生学雑誌. 2022; 64(臨時増刊号): 361.
- 71) 落合由子, 高橋正也, 松尾知明, 佐々木毅, 佐藤ゆき, 深澤健二, 荒木剛. 過去6か月間の労働時間の状況とその後の睡眠状態との関連~JNOSH コホート研究~. 第29回日本行動医学会一般演題発表 行動医学研究. 2022.
- 72) 久保智英, 池田大樹, 井澤修平, 土屋正雄, 三木圭一, 高橋正也. 勤務時間外の仕事メールの頻度と勤務間インターバルの長さからみたIT労働者の疲労回復. 第95回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2022; 64(Suppl.): 395.
- 73) 久保智英. 女性労働者としての交代勤務看護師の疲労と睡眠の問題と対策. 日本睡眠学会第47回定期学術集会シンポジウム「性ホルモンと睡眠・健康」. 抄録集. 2022; 117.
- 74) 久保智英, 松元俊. 職場の疲労特性を踏まえたオーダーメイドの現場介入調査:3交代勤務の看護師調査の事例. 産業疲労研究会 第96回定例研究会. 抄録集なし. 2022.
- 75) 松元俊, 久保智英, 池田大樹, 劉欣欣. 不規則勤務を行う地場トラックドライバーの疲労進展要因:パネルデータを用いた検討. 産業疲労研究会 第96回定例研究会. 抄録集なし. 2022.
- 76) 松元俊, 久保智英, 池田大樹, 井澤修平, 高橋正也. トラックドライバーの出勤時血圧管理の重要性. 第70回日本職業・災害医学会学術総会. 2022; 70.臨時増刊号: 91.
- 77) 松元俊, 久保智英, 井澤修平, 池田大樹. 不規則勤務トラックドライバーの労働睡眠条件と職場での血圧の関連. 日本睡眠学会第47回定期学術集会. プログラム・抄録集. 2022; 229.
- 78) 松元俊, 久保智英, 池田大樹, 井澤修平, 高橋正也. 長距離トラックドライバーの勤務中血圧値の変化とその要因の検討. 第95回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2022; 64(Suppl.): 396.
- 79) 池田大樹, 久保智英, 井澤修平, 西村悠貴. 勤務時間外の仕事の連絡と在宅勤務頻度がIT労働者の心身に及ぼす影響に関する横断調査. 第95回日本産業衛生学会. 2022.
- 80) 池田大樹. With/After コロナ時代の研究活動における知恵と課題:実験研究の立場から. 第95回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2022; 64.臨時増刊号: 223.
- 81) 池田大樹, 久保智英, 西村悠貴, 井澤修平. 勤務時間外の仕事の連絡と在宅勤務頻度がIT労働者の心身に及ぼす影響:9日間の観察調査研究. 日本産業衛生学会産業疲労研究会. 第94回定例研究会, 抄録集. 2022; 3.
- 82) 木内敬太. 仕事関連の反芻思考と心理的ディタッチメントに関する研究の展望. 第86回日本心理学会. 大会抄録集. 3AM-085-PQ. 2022.
- 83) 西村悠貴, 池田大樹, 松元俊, 井澤修平, 川上澄香, 玉置應子, 益田早苗, 久保智英. 夜勤・交替勤務看護師における夜勤時のセルフモニタリング成績低下について. 第40回日本生理心理学会. 予稿集. 2022; 24.
- 84) 劉欣欣, 池田大樹, 小山冬樹, 高橋正也. 模擬長時間労働中の休憩が血行動態反応に及ぼす影響. 第95回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2022; 64, 483.
- 85) 劉欣欣. ラボ実験から見えてきた長時間労働と心血管系反応. 令和4年度労働安全衛生総合研究所 安全衛生技術講演会. 2022.
- 86) 劉欣欣, 池田大樹, 小山冬樹, 高橋正也. 勤務中の心血管系負担の評価に脈圧は有用か:模擬長時間労働を用いた実験研究. 第95回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2022; 64.臨時増刊号: 483.
- 87) 松尾知明, 蘇リナ, 村井史子. 重回帰モデルを用いた心肺持久力推定法の課題. 第95回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2022; 64: 59.

- 88) 松尾知明, 蘇 リナ, 村井史子, 西村悠貴, 日野俊介, 水上勝義. 労働者の精神的体力(mental fitness)に関する質的研究, 第77回日本体力医学会大会. 抄録集. 2022; 237.
- 89) 蘇 リナ, 松尾知明. 労働者の体力評価と健康増進. 日本労働科学学会. 2022年度春季部会.
- 90) 蘇 リナ, 村井史子, 藤居 学, 渡辺早苗, 松尾知明. 労働者の体力と座位行動が心血管疾患リスクおよび関連医療費に及ぼす影響. 日本産業衛生学会産業疲労研究会 第94回定例研究会. 抄録集. 2022; 2.
- 91) 蘇 リナ, 村井史子, 藤居 学, 渡辺早苗, 松尾知明. 労働者の心肺持久力と勤務中座位行動が心血管疾患リスクと年間医療費に及ぼす影響—日本 AIGグループの健診情報とレセプトデータを用いた検討—, 第95回日本産業衛生学会, 産業衛生学雑誌. 2022; 64: 58.
- 92) 蘇 リナ, 村井史子, 松尾知明. 労働者の座位時間評価方法の検討～activPAL、オムロン活動量計、WLAQ(調査票)を用いた横断的検討～, 第24回日本運動疫学会学術総会. 抄録集. 2022; 40.
- 93) 蘇 リナ, 村井史子, 中村有里, 松尾知明. 労働者の健康管理ツールとして開発したステップテストによる心肺持久力と心血管疾患リスクとの関係, 第77回日本体力医学会大会. 抄録集. 2022; 239.
- 94) 村井史子, 蘇 リナ, 松尾知明. 労働者生活活動時間調査票(JNOSH-WLAQ)のwebシステム構築, 第95回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2022; 64: 69.
- 95) 村井史子, 蘇 リナ, 松尾知明. 大規模疫学調査に向けた「労働者生活活動時間調査票(JNOSH-WLAQ)」のweb化, 第24回日本運動疫学会学術総会. 抄録集. 2022; 41.
- 96) 中村有里, 蘇 リナ, 村井史子, 松尾知明. メタボリックシンドローム改善に向けた遠隔指導型生活習慣改善プログラムの効果, 第77回日本体力医学会大会. 抄録集. 2022; 234.
- 97) 吉川徹. 座長の言葉:シンポジウム 14 新しい時代の働き方と職場環境改善. 第95回日本産業衛生学会. 抄録. 2022; 207.
- 98) 吉川徹. シンポジウム6:労働安全分野における最近の国際動向と小規模事業場で働く魅力. 産業ストレス研究. 2022; 30(1): 110.
- 99) 鈴木一弥, 吉川徹. 副業・兼業と労働者の健康に関する実証的研究の文献検討. 第95回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2022; 64(Suppl.): 309.
- 100) 高橋正也. 過労死等労災の最新状況. シンポジウム「新たな働き方を充実させるには」. 第6回労働時間日本学会研究集会, 抄録集. 2021; 7.
- 101) 高橋正也. 過労死等を防止するにはどのような取組が必要か. 特別シンポジウム「過労死防止法制定7年, 現状とこれからの課題」. 過労死防止学会第7回大会. 2021.
- 102) 高橋正也. 日本産業保健法学会第1回学術大会. 連携学会との共同シンポジウム①:【日本産業ストレス学会】(シリーズ)裁判所による産業ストレスの認定を検証する(1). 作業関連精神障害のばく露要因に関する研究知見. 産業保健法学会誌. 2021; 1(増刊号): 83.
- 103) 中嶋 義文, 吉川 徹. 医師の働き方改革のための面談指導実施医師研修. 総合病院精神医学 2021; 33(Suppl.): S-122.
- 104) 西村悠貴, 山内貴史, 佐々木毅, 吉川徹, 高橋正也. 階層的クラスタリングを用いた労災認定自殺事案の時間外労働パターンの分類. 第94回日本産業衛生学会. 産業衛生学雑誌. 2021; 63(臨時増刊号): 337. (若手最優秀演題賞受賞)
- 105) 茂木伸之, 松元俊, 久保智英, 井澤修平, 池田大樹, 高橋正也, 甲田茂樹. 道路貨物運送業における精神障害等の労災認定事案の解析, 第94回日本産業衛生学会, 産業衛生学雑誌. 2021; 63(増刊号): 403.
- 106) 木内敬太, 佐々木毅, 高橋正也, 久保智英, 吉川徹, 松尾知明, 劉欣欣. 労働者における心理的負荷が想定される職

- 場での出来事を経験パターンの分類と睡眠や抑うつ症状との関連. 第 94 回日本産業衛生学会, 産業衛生学雑誌. 2021; 63(増刊号): 557.
- 1107) 高橋正也. 交替勤務と睡眠の観点から見た働き方改革. 第 94 回日本産業衛生学会, 産業衛生学雑誌. 2021; 63(臨時増刊号): 249.
- 1108) 高橋正也. 働き方に及ぼした光と影について. 日本学術会議公開シンポジウム「ポストコロナ社会を見据えた睡眠・生活リズムのあり方〜コロナ自粛から学ぶ〜」. 2021.
- 1109) 高橋正也. 労働安全衛生の視点から. シンポジウム 1「多様な視点から”眠気”にアプローチする」. 第 12 回 Integrated Sleep Medicine Society Japan 学術集会, 抄録集. 2021; 40.
- 1110) 高橋正也. 交代勤務と睡眠. シンポジウム 36「睡眠と健康 2021」. 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 抄録集. 2021; 165.
- 1111) 久保智英, 松元俊, 井澤修平, 西村悠貴, 川上澄香, 池田大樹, 玉置應子. 深夜勤務後の勤務間インターバル確保を念頭においた 3 交代勤務シフトスケジュールへの介入調査. 第 69 回日本職業・災害医学会学術大会. 2021; 第 69 巻臨時増刊号: 58.
- 1112) 久保智英, 池田大樹, 松元俊, 井澤修平, 山本啓太, 高橋正也, 小村由香. 睡眠マネジメントの立案に向けて: 交代勤務看護師における夜間睡眠の取得状況と疲労. 第 94 回日本産業衛生学会, 産業衛生学雑誌. 2021; 63(臨時増刊号): 422.
- 1113) 松元俊, 久保智英, 池田大樹, 井澤修平, 高橋正也. 不規則勤務トラックドライバーの出勤時血圧に関連する労働休息条件の検討. 第 31 回日本産業衛生学会全国協議会, 講演集. 2021; 304.
- 1114) 池田大樹, 久保智英, 佐々木毅, 西村悠貴, 劉欣欣, 松尾知明, 蘇リナ, 松元俊, 高橋正也. 勤務間インターバルの変化が睡眠時間に及ぼす影響: 日勤労働者を対象とした縦断調査. 第 94 回日本産業衛生学会, 産業衛生学雑誌. 2021; 63, 臨時増刊号: 335.
- 1115) 岩浅巧, 西村悠貴, 吉川徹, 佐々木毅, 高橋正也. 労働時間と抑うつの関係に関する縦断研究. 第 94 回日本産業衛生学会, 産業衛生学雑誌. 2021; 63(臨時増刊号): 543.
- 1116) 劉欣欣, 池田大樹, 小山冬樹. 令和 2 年度過労死等防止調査研究センター研究成果発表シンポジウム. 2021.
- 1117) 池田大樹, 劉欣欣, 小山冬樹他. 長時間労働時と睡眠制限が血行動態に及ぼす影響: 健康成人男性を対象とした実験研究. 日本睡眠学会第 46 回定期学術集会. 2021; 抄録集 241.
- 1118) 松尾知明, 蘇リナ, 村井史子. 運動トレーニング介入による実測 VO₂max の変化に推定 VO₂max は追従できるか, 第 76 回日本体力医学会大会. 予稿集. 2021; 237.
- 1119) 蘇リナ, 村井史子, 松尾知明. 労働者の座位時間評価方法の検討: activPAL、オムロン活動量計、WLAQ (調査票), 第 76 回日本体力医学会大会. 予稿集. 2021; 247.
- 1120) 村井史子, 松尾知明, 蘇リナ. 大規模疫学調査に向けた身体活動・心拍データ処理システムの開発, 第 76 回日本体力医学会大会. 予稿集. 2021; 247.

2-3.学会発表(その他)

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

なし

II 研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Jaehoon Seol, Rina So, Fumiko Murai, Tomoaki Matsuo	Relationship between rest-activity rhythms and cardiorespiratory fitness in middle-aged workers: a cross-sectional study with non-parametric analysis using accelerometers worn on the thigh.	BMC Public Health	24(1)	62	2024
Tomohiro Ishimaru, Makoto Okawara, Toru Yoshikawa, Michiko Kido, Yoshifumi Nakashima, Anna Nakayasu, Kokuto Kimori, Satoshi Imamura, Kichiro Matsumoto	Trends in Physician Work Schedules in Japan: Employed Physician Surveys of the Japan Medical Association in 2009, 2015, and 2021.	JMA journal	6(3)	339-341	2023
Yusaku Morita, Toru Yoshikawa, Masaya Takahashi	Long working hours and risk of hypertensive intracerebral haemorrhage among Japanese workers claiming compensation for overwork-related intracerebral haemorrhage: an unmatched case-control study.	BMJ open	13(9)	e074465	2023
Yuki Takahashi, Toru Yoshikawa, Kenji Yamamoto, Masaya Takahashi	Characteristics of mental disorders among information technology workers in 238 compensated cases in Japan.	Industrial Health		2022-0197.	2023
Yuko Ochiai, Masaya Takahashi, Tomoaki Matsuo, Takeshi Sasaki, Yuki Sato, Kenji Fukasawa, Tsuyoshi Araki, Yasumasa Otsuka	Characteristics of long working hours and subsequent psychological and physical responses: JNIOOSH cohort study.	Occupational and Environmental Medicine	80(6)	304-311	2023
Keita Kiuchi, Takeshi Sasaki, Masaya Takahashi, Tomohide Kubo, Toru Yoshikawa, Tomoaki Matsuo, Xinxin Liu	Mediating and moderating effects of psychological detachment on the association between stressors and depression: A longitudinal study of Japanese workers.	Journal of Occupational and Environmental Medicine	65(3)	e161-e169	2023
Yuki Nishimura, Hiroki Ikeda, Shun Matsumoto, Shuhei Izawa, Sayaka Kawakami, Masako Tamaki, Sanae Masuda, Tomohide Kubo	Impaired self-monitoring ability on reaction times of psychomotor vigilance task of nurses after a night shift.	Chronobiology International	40(5)	603-611	2023

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tomoaki Matsuo, Rina So, Fumiko Murai	Estimation methods to detect changes in cardiorespiratory fitness due to exercise training and subsequent detraining.	European Journal of Applied Physiology	123(4)	877-889	2023
Rina So, Fumiko Murai, Manabu Fujii, Sanae Watanabe, Tomoaki Matsuo	Association of sitting time and cardiorespiratory fitness with cardiovascular disease risk and healthcare costs among office workers.	Industrial Health	61(5)	368-378	2023
Yuki Nishimura, Takashi Yamauchi, Takeshi Sasaki, Toru Yoshikawa, Masaya Takahashi	Overtime working patterns and adverse events in work-related suicide cases: hierarchical cluster analysis of national compensation data in Japan (fiscal year 2015-2016).	International Archives of Occupational and Environmental Health	95(4)	887-895	2022
Yuki Sato, Masaya Takahashi, Yuko Ochiai, Tomoaki Matsuo, Takeshi Sasaki, Kenji Fukasawa, Tsuyoshi Araki, Masao Tsuchiya, Cohort Study GOJ	Study profile: protocol outline and study perspectives of the cohort by the National Institute of Occupational Safety and Health, Japan (JNIOH cohort).	Industrial Health	60(4)	395-404	2022
Yuko Ochiai, Masaya Takahashi, Tomoaki Matsuo, Takeshi Sasaki, Yuki Sato, Kenji Fukasawa, Tsuyoshi Araki, Yasumasa Otsuka	Health problems associated with single, multiple, and the frequency of months of objectively measured long working hours: a cohort study by the National Institute of Occupational Safety and Health, Japan.	International Archives of Occupational and Environmental Health	95(3)	685-699	2022
Tomohide Kubo, Shun Matsumoto, Shuhei Izawa, Hiroki Ikeda, Yuki Nishimura, Sayaka Kawakami, Masako Tamaki, Sanae Masuda	Shift-work schedule intervention for extending restart breaks after consecutive night shifts: A non-randomized controlled cross-over study.	International Journal of Environmental Research and Public Health	19(22)	15042	2022
Hiroki Ikeda, Tomohide Kubo, Takeshi Sasaki, Yuki Nishimura, Xinxin Liu, Tomoaki Matsuo, Rina So, Shun Matsumoto, Masaya Takahashi	Prospective changes in sleep problems in response to daily rest period among Japanese daytime workers: a longitudinal web survey.	Journal of Sleep Research	31(1)	e13449	2022
Tomoaki Matsuo, Rina So, Fumiko Murai	Improved VO2max estimation by combining a multiple regression model and linear extrapolation method.	Journal of Cardiovascular Development and Disease	10(1)	9	2022

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Rina So, Fumiko Murai, Tomoaki Matsuo	Association of cardiorespiratory fitness with the risk factors of cardiovascular disease: Evaluation using the Japan step test from the National Institute of Occupational Safety and Health.	Journal of Occupational Health	64(1)	e12353	2022
Hiroki Ikeda, Xinxin Liu, Fuyuki Oyama, Takahide Akama, Shuhei Izawa, Masaya Takahashi	Effects of short sleep duration on hemodynamic and psychological responses under long working hours in healthy middle-aged men: an experimental study.	Industrial Health	60(6)	535-547	2022
Tomohide Kubo, Shun Matsumoto, Takeshi Sasaki, Hiroki Ikeda, Shuhei Izawa, Masaya Takahashi, Shigeki Koda, Tsukasa Sasaki, Kazuhiro Sakai	Shorter sleep duration is associated with potential risks for overwork-related death among Japanese truck drivers: use of the Karoshi prodromes from worker's compensation cases.	International Archives of Occupational and Environmental Health	94	991-1001	2021
高見具広	自律的な働き方と労働時間管理の課題－健康確保の観点から	日本労働研究雑誌	No.752		2023
劉 欣欣, 池田大樹, 小山冬樹, 西村悠貴, 高橋正也	模擬長時間労働時の主観的負担と課題パフォーマンス	労働安全衛生研究	16(2)	159-164	2023
堤 明純, 吉川 徹	小規模事業場でメンタルヘルス対策を進める上での課題と方策	産業ストレス研究	30(4)	395-401	2023
川上澄香, 井澤修平, 久保智英, 吉川徹	介護職におけるトラウマティックな出来事の影響に関する研究	労働安全衛生研究	15(2)	143-151	2022
茂木伸之, 松元 俊, 久保智英, 井澤修平, 池田大樹, 高橋正也, 甲田茂樹	道路貨物運送業の運転業務従事者及び非運転業務従事者における労災認定された精神障害等事案の特徴	産業衛生学雑誌	64(5)	244-252	2022
松元俊, 久保智英, 井澤修平, 池田大樹, 高橋正也, 甲田茂樹	トラックドライバーの健康障害と過労状態に関連する労働生活要因の検討	産業衛生学雑誌	64(1)	1-11	2022
西村悠貴, 佐々木毅, 吉川徹, 高橋正也	職場における出来事への長期的なばく露と高ストレス判定の関連	労働安全衛生研究	15(2)	95-104	2022
鈴木一弥, 吉川 徹, 高橋正也	長時間労働による健康障害の自主的な予防活動を支援するツールに関する調査	労働安全衛生研究	15(1)	23-35	2022

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
永峰大輝, 仙波京子, 石井賢治, 石川智, 竹内由利子, 北島洋樹, 野原理子, 酒井一博	小規模事業所におけるトラックドライバーの労働環境・健康管理の実態調査	労働科学	98(2)	54-64	2022
劉 欣欣, 池田大樹, 小山冬樹, 高橋正也	高年齢層の男性における模擬長時間労働時の心血管系反応	労働安全衛生研究	14(2)	149-153	2021
高見具広	脳・心臓疾患の労災認定事案における就業スケジュールの分析	労働政策研究・研修機構編『過重負荷による労災認定事案の研究 その5』JILPT資料シリーズ	No.273		2024
高見具広	過労死等の労災認定事案における労働時間の認定にかかわる事案の検討	労働政策研究・研修機構編『過重負荷による労災認定事案の研究 その4』JILPT資料シリーズ			2023
高橋正也, 吉川徹	過労死リスクの高い教師の働き方をどう変えるか	先生を、死なせない。教師の過労死を繰り返さないために、今、できること。東京, 教育開発研究所		178-193	2022
高橋正也	交代制勤務・夜勤	人間の許容・適応限界事典。東京, 朝倉書店		601-605	2022
高橋正也	運転	人間の許容・適応限界事典。東京, 朝倉書店		625-629	2022
高橋正也	睡眠と社会, 労働	日本睡眠教育機構監修, 健康・医療・福祉のための睡眠検定ハンドブック up to date. 東京, 全日本病院出版会		169-176	2022
吉川 徹	業種別・作業別の産業保健; 医療機関	産業保健マニュアル(改訂8版)		424-427	2021
高見具広	精神障害の労災認定事案における「極度の長時間労働」事案の検討	労働政策研究・研修機構編『過重負荷による労災認定事案の研究 その3』JILPT資料シリーズ	No.246		2021
高橋正也	夜勤交代勤務。適正使用のための臨床時間治療学—生体リズムと薬物治療効果—	東京, 診断と治療社		60-67	2021
高橋正也, 北島洋樹	シンポジウム 10(大会事務局企画) 過労死等事案の医学研究	産業精神保健	32(1)	143-146	2024

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
松元 俊	トラックドライバーの不規則勤務の健康影響と対策の方向性	日本産業衛生学会関東地方会 ニュース	49	2-3	2024
松元 俊	トラックドライバーの夜間早朝出発を伴う不規則勤務スケジュールが血圧・動脈硬化に及ぼす影響の検討	日本労働研究雑誌	764 (2・3)	77-92	2024
高橋正也	働き方と健康のエビデンス「過労死等防止調査研究センターのこれからの役割」	へるすあっぷ 21 3月号	473	38	2024
吉川 徹	メンタルヘルスと職場環境改善—産業精神保健における Agility と Sustainability に注目して—	産業精神保健	32(1)	1-6	2024
高橋正也	日本労働科学学会・研究プロジェクト最終報告(要約)「過労死等を防ぐための事業場並びに国家の取組:過労死等事業場のその後(2021年～2023年)」	年報 労働科学学会	第3号	67-71	2023
佐々木毅, 吉川 徹	過労死等としての脳・心臓疾患の経年変化～労災認定事案の分析から～	へるすあっぷ 21 5月号	463	38	2023
西村悠貴	過労自殺事案における長時間労働の実態	へるすあっぷ 21 6月号	464	38	2023
吉川 徹	働き方改革関連法を含む最近の労働安全衛生に関連した法改正の動向—特集 嘱託産業医として心得ておくべき最近のトピックス	月刊地域医学	301-307	37(3)	2023
高橋正也	健康にモノを運び続けるためにできること	陸運と安全衛生	656	6-9	2023
高橋正也	労働生活における良好な睡眠と健康～ウェルビーイングを目指して～	林材安全	891	10-14	2023
高橋正也	新しい働き方と睡眠. 医学講座「ワーク・スリープ・バランス」最終回	季刊ろうさい	56	28-33	2023
久保智英	交代勤務看護師における勤務間インターバル延長の効果	へるすあっぷ 21 9月号	467	38	2023
久保智英	つながらない権利が尊重される環境の実現に向けて	広報誌「GENKI」	163	1-6	2023
久保智英	プラスワン“つながらない権利”の重要性	Leadership Development Note (LD ノート)	1388	34-35	2023
松元 俊	トラックドライバーの血圧上昇と過労の要因	へるすあっぷ 21 10月号	468	38	2023
松元 俊	インターバル協定から始まるシフトスケジュール見直しとその方法	医療労働	673	2-5	2023

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
池田大樹, 久保智英	勤務間インターバルと健康とのかかわり	へるすあつぷ 21 8月号	466	38	2023
劉 欣欣	模擬長時間労働中の血圧: 加齢の影響	へるすあつぷ 21 12月号	470	38	2023
池田大樹	模擬長時間労働中の血圧: 高血圧の影響	へるすあつぷ 21 11月号	469	38	2023
蘇 リナ, 村井史子, 松尾知明	身体活動評価に向けたウェアラブル機器の活用と今後の展望	産業ストレス研究	30(2)	191-200	2023
高橋正也	働き方と健康のエビデンス「働き方と健康のエビデンスを創る 過労死等防止調査研究センター」	へるすあつぷ 21 4月号	462	38	2023
吉川 徹	書評「健康に働く職場の共通課題-グローバルな動きに合わせた方向づけをさぐる-」(小木和孝著「産業保健の国際共通課題-すべての労働者にサービスをとどけるために-(産業医学振興財団)」)	図書新聞	3620	12	2023
中西麻由子	産業医の声 プロダクトアウトとマーケットイン 産業保健サービス提供体制があるのに、なぜ小規模事業場の産業保健活動は進まないのか?	産業医学ジャーナル	46(4)	71-73	2023
高橋正也	特集記事 過労死等(脳・心臓疾患)に関する労災認定基準の見直しとその背景	日本産業衛生学会関東地方会ニュース	46	2-3	2022
吉川 徹	「過労死等の防止のための対策に関する大綱」の変更(令和3年7月30日閣議決定)	産業ストレス研究	29(2)	261-262	2022
吉川 徹	働き方改革関連法を含む最近の労働安全衛生に関連した法改正の動向	月間地域医学. 地域医療振興協会	37(3)	301-307	2022
吉川徹, 城守国斗, 木戸道子, 中嶋義文, 松本吉郎	特集「医師の働き方改革と産業保健」日本医師会における医師の働き方改革に係る取組	産業医学ジャーナル	January 46-1	13-18	2022
吉川 徹	特集記事 医師の働き方改革	日本産業衛生学会関東地方会ニュース	47	2	2022
吉川 徹	医療従事者が安心して健康に働くために(第10回)職業性感染症とその対策	保健の科学	64(10)	695-700	2022
吉川 徹	医師へのドクターストップは機能するか「働き方ストップ」	Medical Tribute	55(15)	6	2022

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
吉川 徹	ストレスチェック制度のこれまでのあゆみ	公益社団法人日本精神保健福祉連盟 広報誌	48	1-7	2022
吉川 徹	メンタルヘルス対策に活かす職場環境改善	安全と健康	23(3)	240-244	2022
吉川 徹	WHO 協力センターとしての最近の取り組みーCOVID-19 対応を含めてー	産業医学ジャーナル	45(2)	66-69	2022
茂木伸之, 吉川徹	日本の教職員の長時間労働と過労死等に影響を与える睡眠およびメンタルヘルス研究に関するレビュー	産業精神保健	30(2)	205-210	2022
高橋正也	睡眠とは. 医学講座「ワーク・スリープ・バランス」第1回	季刊ろうさい	53	26-31	2022
高橋正也	働く人々の睡眠と健康・安全. 医学講座「ワーク・スリープ・バランス」第2回	季刊ろうさい	54	25-30	2022
高橋正也	夜勤交代勤務と睡眠. 医学講座「ワーク・スリープ・バランス」第3回	季刊ろうさい	55	26-30	2022
久保智英	夜勤・交代制勤務に従事する看護師が疲れる理由とその対策	看護 2022 年 11 月臨時増刊号	74(14)	14-20	2022
久保智英	労働時間管理におけるテレワークの光と影	安全と健康	23(5)	23-27	2022
久保智英	過労死を防ぐための働き方ー休むこと, 休ませることの重要性ー	保健の科学	64	386-391	2022
久保智英	仕事の反対語から考える日本人の労働観とブルシット・ジョブ	へるすあつぷ 21 8 月号	454	22	2022
松元 俊	トラックドライバーの不規則勤務が健康に及ぼす影響とその改善策の検討	安全衛生コンサルタント	145(43)	26-30	2022
松元 俊	夜勤実態調査にちよい足しして勤務シフト改善に活かす	医療労働	662	2-5	2022
吉川 徹	運輸業(物流業界、旅客運送)における新しい働き方と産業精神保健への期待	産業精神保健	30(特別号)	96-99	2022
高橋正也	第27回日本産業精神保健学会 特別講演 I :働き方改革法案と産業精神保健ー睡眠医学の見地から	産業精神保健	29(3)	194-199	2021
高橋正也	残業減らし 余暇生活の充実を	ひろばユニオン	716	21-23	2021

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
高橋正也	最新の研究データから見る働き方と健康の関連	へるすあつぷ 21	445	12-14	2021
高橋正也	過労死防止法制定 7 年, 現状とこれから	過労死防止学会誌	2	52-61	2021
吉川 徹	特集～過重労働(長時間労働)とメンタルヘルス 特集にあたって—産業保健スタッフのための過重労働防止策に役立つ最新情報—	産業精神保健	29(2)	90-93	2021
池田大樹	日勤労働者における睡眠負債・社会的時差ぼけと勤務間インターバルの関連性	行動医学研究	26(2)	53-57	2021

